

平成 26 年度第 1 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日時 平成 26 年 7 月 2 日 (水)
14:00～16:00
 - (2) 場所 東山地域交流センター 多目的ホール
 - (3) 目的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 312 名
 - (6) 主催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 26 年度 第 1 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 26 年 7 月 2 日 (水)

14:00～16:00

場所：東山地域交流センター
多目的ホール

次 第

1 開 会 14:00

2 挨 拶

3 講 演 14:15～15:45

認知症とはどういうものか？

～症状・気づき・対応～

講 師 岩手県立千厩病院 院長 吉田 徹 氏

4 行政報告 15:45～16:00

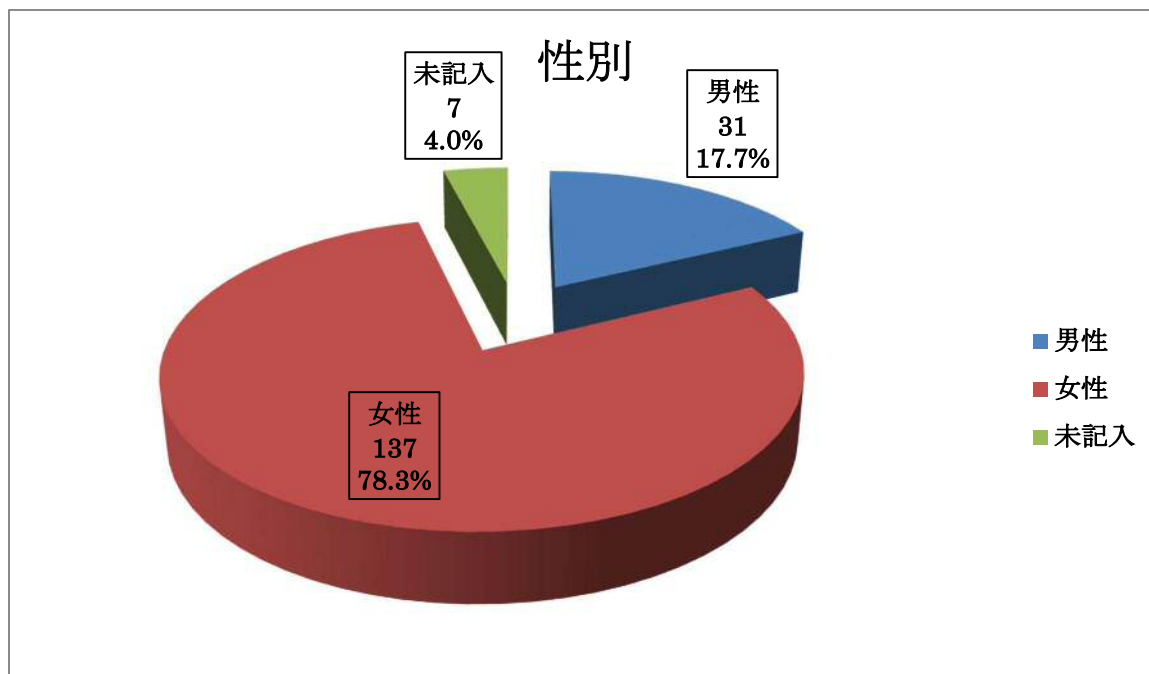
5 閉 会 16:00

2 アンケートの集計結果

回答者数 175 人 (回収率 56.1%)

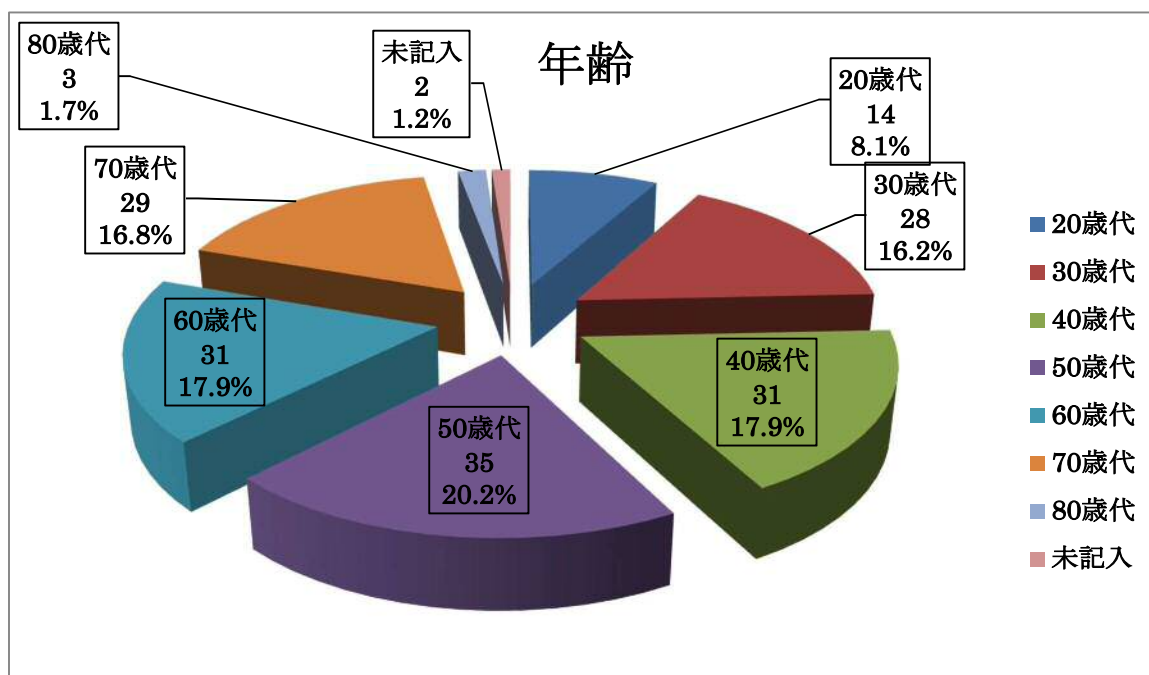
質問1 性別

| | |
|-----|--------------|
| 男性 | 31人 (17.7%) |
| 女性 | 137人 (78.3%) |
| 未記入 | 7人 (4.0%) |



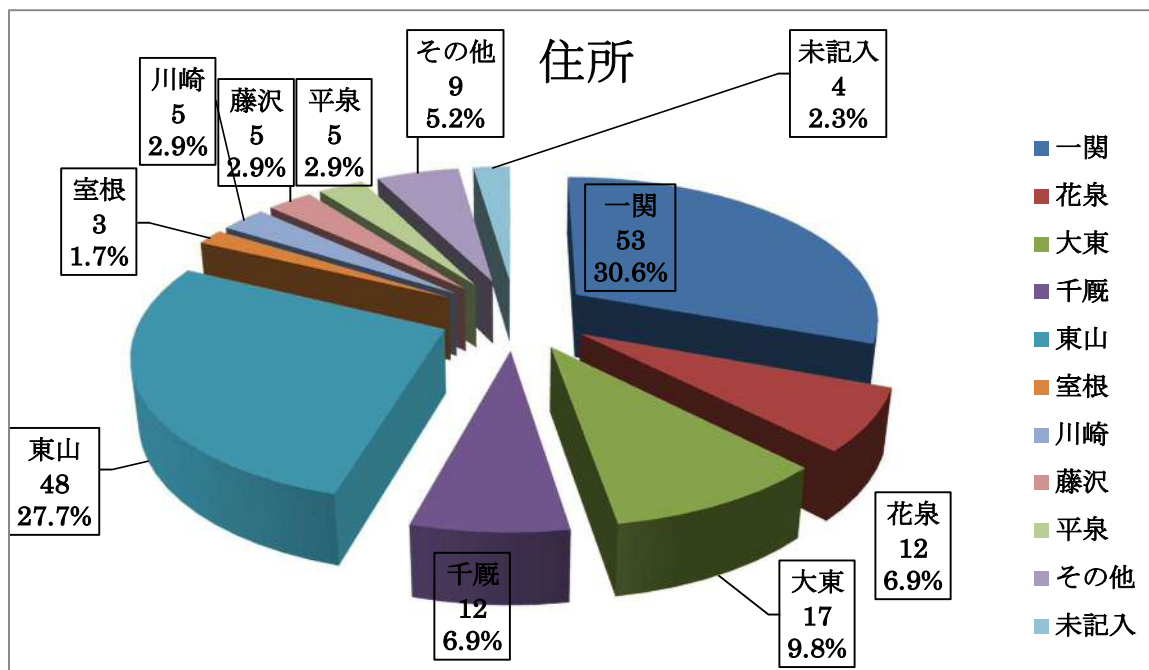
質問2 年齢

| | | | |
|------|-------------|------|-------------|
| 20歳代 | 14人 (8.1%) | 30歳代 | 28人 (16.2%) |
| 40歳代 | 31人 (17.9%) | 50歳代 | 35人 (20.2%) |
| 60歳代 | 31人 (17.9%) | 70歳代 | 29人 (16.8%) |
| 80歳代 | 3人 (1.7%) | 未記入 | 2人 (1.2%) |



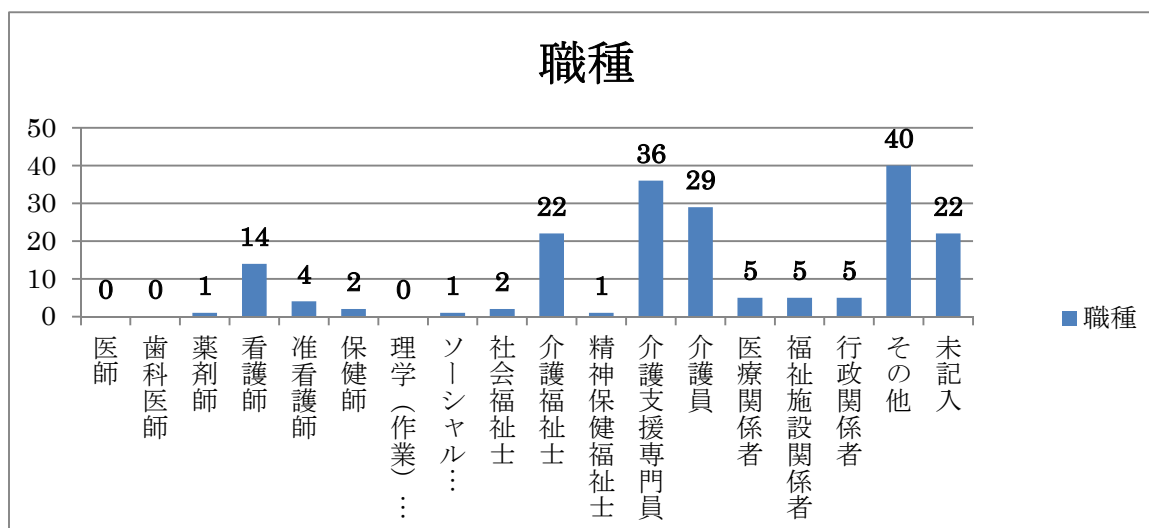
質問3 住所

| | | | |
|-----|-------------|-----|------------|
| 一関 | 53人 (30.6%) | 花泉 | 12人 (6.9%) |
| 大東 | 17人 (9.8%) | 千厩 | 12人 (6.9%) |
| 東山 | 49人 (27.7%) | 室根 | 3人 (1.7%) |
| 川崎 | 5人 (2.9%) | 藤沢 | 5人 (2.9%) |
| 平泉 | 5人 (2.9%) | その他 | 9人 (5.2%) |
| 未記入 | 4人 (2.3%) | | |



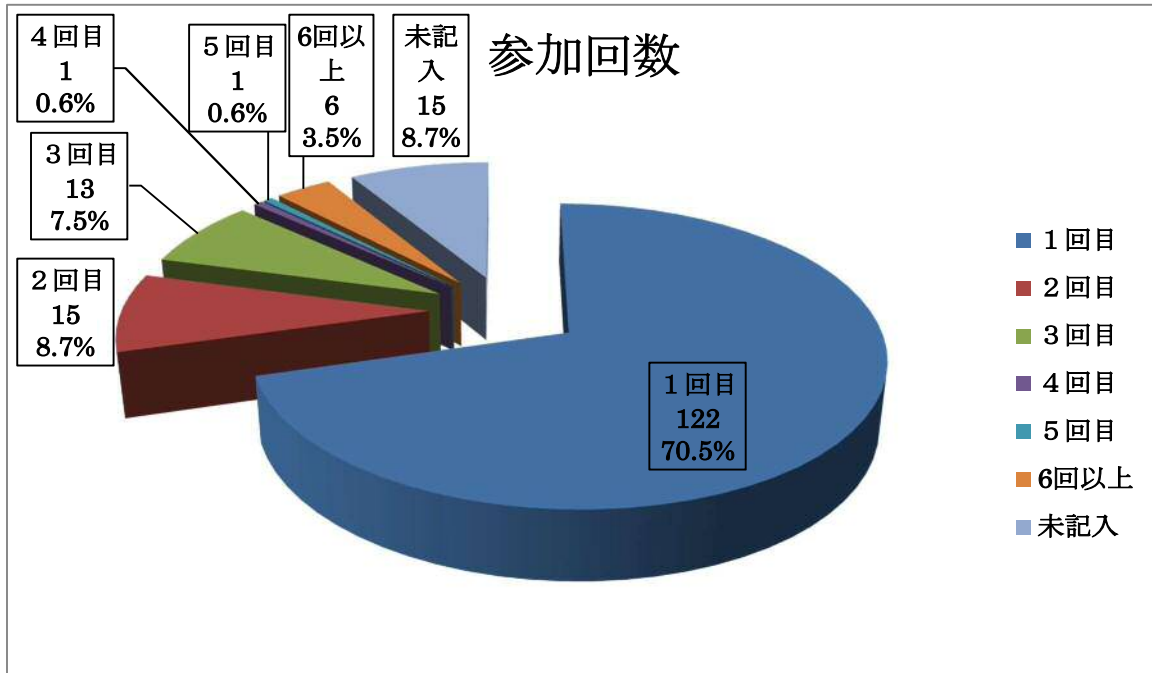
質問4 職種

| | | | |
|-----------|-------------|-----------|-------------|
| 医師 | 0人 (0.0%) | 歯科医師 | 0人 (0.0%) |
| 薬剤師 | 1人 (0.5%) | 看護師 | 14人 (7.4%) |
| 准看護師 | 4人 (2.1%) | 保健師 | 2人 (1.1%) |
| 理学(作業)療法士 | 0人 (0.0%) | ソーシャルワーカー | 1人 (0.5%) |
| 社会福祉士 | 2人 (1.1%) | 介護福祉士 | 22人 (11.6%) |
| 精神保健福祉士 | 1人 (0.5%) | 介護支援専門員 | 36人 (19.0%) |
| 介護員 | 29人 (15.3%) | 医療関係者 | 5人 (2.6%) |
| 福祉施設関係者 | 5人 (2.6%) | 行政関係者 | 5人 (2.6%) |
| その他 | 40人 (21.2%) | 未記入 | 22人 (11.6%) |



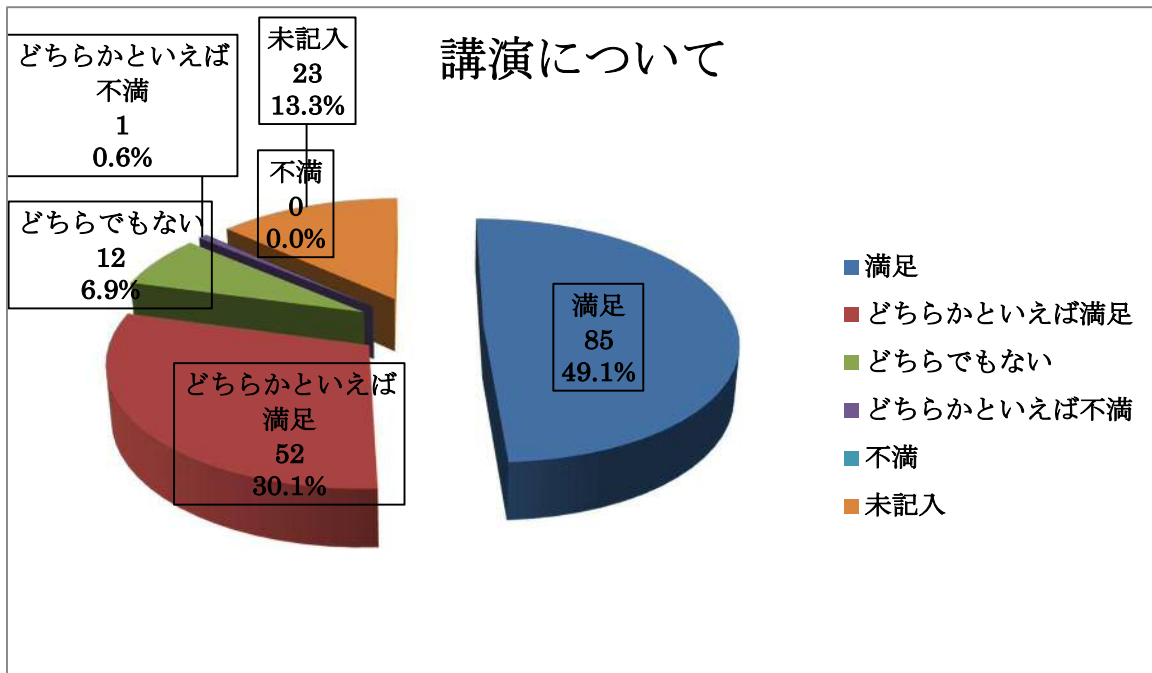
質問5 参加回数

| | | | | | |
|-----|--------------|-----|------------|------|------------|
| 1回目 | 122人 (70.5%) | 2回目 | 15人 (8.7%) | 3回目 | 13人 (7.5%) |
| 4回目 | 1人 (0.6%) | 5回目 | 1人 (0.6%) | 6回以上 | 6人 (3.5%) |
| 未記入 | 15人 (8.7%) | | | | |



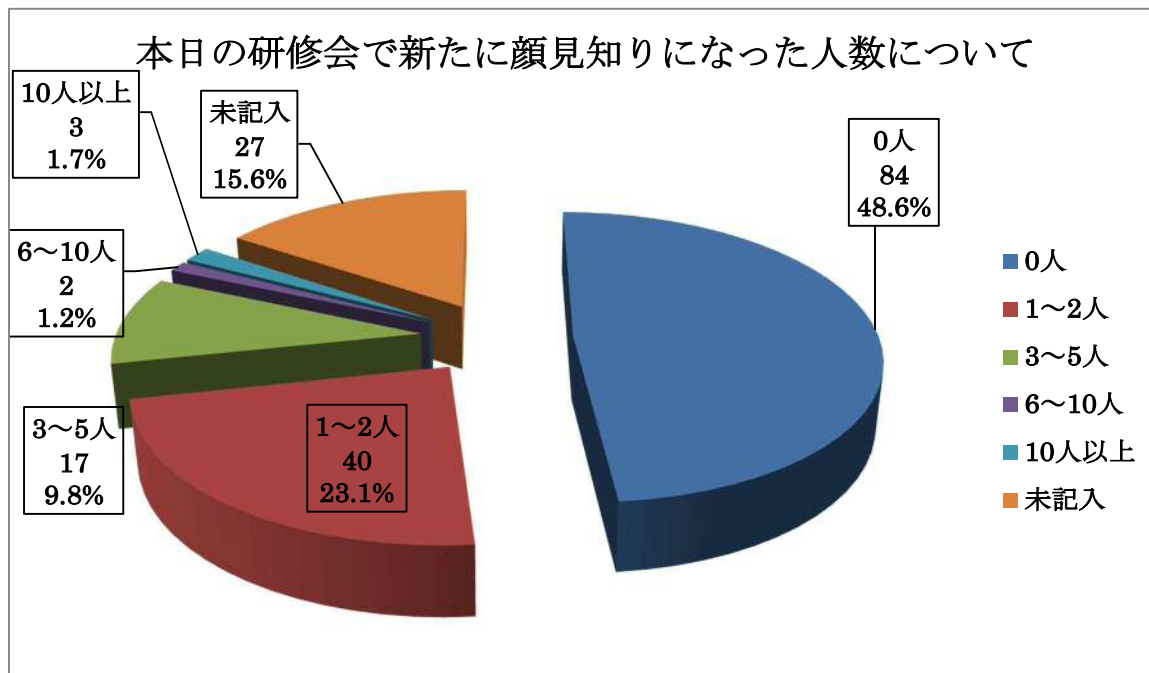
質問6 講演について

| | | | |
|---------|-------------|------------|-------------|
| 満足 | 85人 (49.1%) | どちらかといえば満足 | 52人 (30.1%) |
| どちらでもない | 12人 (6.9%) | どちらかといえば不満 | 1人 (0.6%) |
| 不満 | 0人 (0.0%) | 未記入 | 23人 (13.3%) |



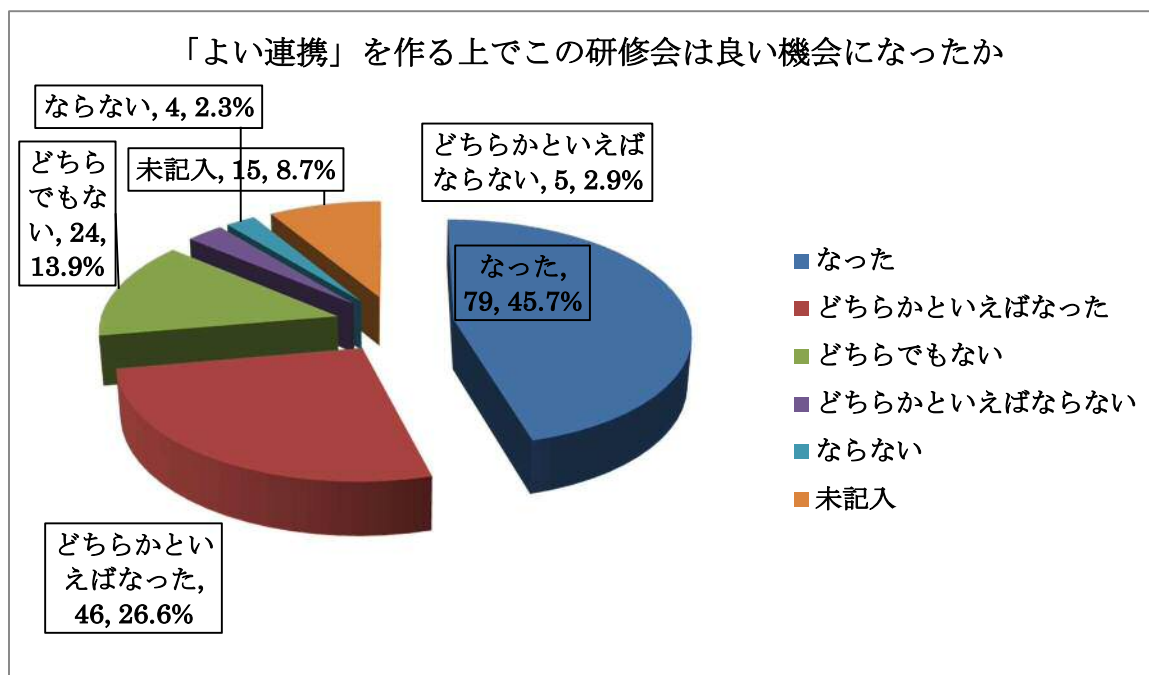
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

| | | | |
|-------|-------------|-------|-------------|
| 0人 | 84人 (48.6%) | 1～2人 | 40人 (23.1%) |
| 3～5人 | 17人 (9.8%) | 6～10人 | 2人 (1.2%) |
| 10人以上 | 3人 (1.7%) | 未記入 | 27人 (15.6%) |



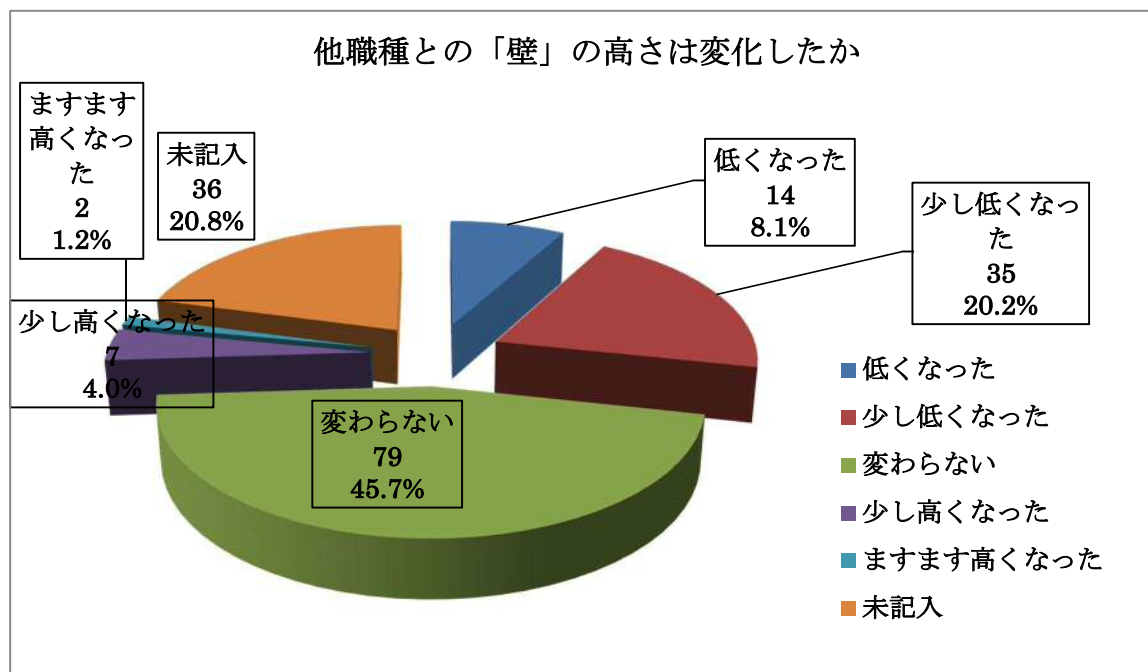
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

| | | | |
|---------|-------------|--------------|-------------|
| なった | 79人 (45.7%) | どちらかといえばなった | 46人 (26.6%) |
| どちらでもない | 24人 (13.9%) | どちらかといえばならない | 4人 (2.3%) |
| ならない | 5人 (2.9%) | 未記入 | 15人 (8.7%) |



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

| | | | |
|-----------|-------------|---------|-------------|
| 低くなった | 14人 (8.1%) | 少し低くなった | 35人 (20.2%) |
| 変わらない | 79人 (45.7%) | 少し高くなった | 7人 (4.0%) |
| ますます高くなった | 2人 (1.2%) | 未記入 | 36人 (20.8%) |



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(看護師)

- ・学習会の回数を多くし、お互いの壁を取り外し共有して行くことが大切と思います。
- ・ケアマネの質のレベルアップ。
- ・医療者も介護者も介護する人に対して、同じ方向に向けて看護・介護ができるよう、コミュニケーションを取りながらやること。
- ・常に情報交換を行い、お互いの意見を聞いて方向性を同じ方へ向ける。
- ・積極的にこのような会に出席し他職種と知り合うことが必要であると感じました。

(準看護師)

- ・理解 (F a とHP側と介護施設側)

(歯科衛生士)

- ・システムを構築して情報を共有できれば。行政と病院間で独居老人の情報など。

(介護福祉士)

- ・役所がもう少し立ち寄りやすい場所となるよう希望します。
- ・情報の交換を密にする。
- ・情報交換。世代、職種を超えたコミュニケーション。
- ・家族介護は毎日が大変です。医療の方の助言や入院期間の延長を希望します。助言、情報交換が必要です。
- ・情報の共有。周辺症状に対する同じ対応。
- ・認知症を気づく事の情報交換についての連携。
- ・情報の提供。
- ・認知症について全職員が知識を深めること。

- ・この頃は医療の方も介護について知識がある方がいらっしやるので連携がスムーズになったと感じています。介護側も医療に関する知識を得て頂くことが必要だと思います。
- ・良好なコミュニケーション。
- ・早期発見で介護の必要のないようにする事。
- ・医療職と介護職の交流。
- ・定期的な話し合い。

(介護支援専門員)

- ・スキル。知識の向上。共有化。
- ・お互いの分野の理解を深めること。
- ・医療関係者も介護保険制度について理解を頂きたい。例えばディケア利用時にお願いする診療情報提供書の依頼をした際、スムーズに書類を書いて頂けるのではないかと思います。
- ・認知症のため病院に入院できないと言われた。医療側の理解と体制を整えて頂きたい。
- ・顔の見える関係づくり。
- ・必要だと思います。
- ・お互いの「壁」をなくす。医師の福祉に対する理解。
- ・総合診療科を広め在宅には複数の通院が必要となるのが負担となっている。
- ・今回のように地域の方が参加できる講演があると良いと思います。
- ・少しずつ顔の見える連携を作って行きたいと努力している方に感謝しています。
- ・お互いを理解すること。

(介護員)

- ・家族の気づきが第一である。なかなか同じ家の人だと気づかない。地域・近所の方からの情報が必要である。それから医療のお世話になり、正しい対応が早期にできるのかなと思う。
- ・お互いに申し送りが大事だと思います。
- ・声をかけてあげ、相手の話に耳を傾け、共感することが大切なことと感じました。笑顔の日々でありたい。
- ・コミュニケーション的な繋がり。
- ・必要だと思います。今の会社でも連携が必要だと思います。
- ・思いやりの心だと思います。
- ・病院勤務で最近、認知症の患者様が増えてきているのが実感しています。病院から次というのが続かない現実です。その為に家族様も気軽に話せる連携。また、家族も認知症と認める（病院）
- ・進行が早くてついて行けなかった。
- ・地域包括支援センター
- ・情報交換とそのための良好なコミュニケーション。

(医療関係者)

- ・連携を「何故」必要なかの目的。

(福祉施設関係者)

- ・医師的な専門分野が多く、よく理解できなかった。3ヶ月の経験しかないのもそう感じたものと思う。
- ・賃金の差

(行政関係者)

- ・情報交換。

(その他)

- ・お互い理解すること。言葉遣いに気をつけること。(民生委員)
- ・いろいろ相談にのってほしい。

- ・常に病院に行き先生といろいろなお話をしています。私は血圧でひがしやま病院に月1回は行っています。
- ・認知症を支える町づくり。
- ・医療従事者の壁を低くし、地域、介護従事者がマナーを守ること。相談員の方々の活用。地域資源を円滑に結びつける職員の方々の育成。
- ・医・介に限った話ではありませんが、顔のつながりが大事だと思います。
- ・信頼すること。
- ・まさに「ほうれんそう」かなと思いました。協力し合いご本人の事を最善に考えて対応していくことではないでしょうか。ドーナツ形の協力連携とても参考になりました。
- ・ぼけないように毎日3人以上の人と会話をする事。
- ・良い話でしたがスピーカーかマイクが悪いのか先生の話が聞き取れませんでした。
- ・たくさん介護サービス事業所の方がいらして、今までにないくらいの参加人数を見て、今後の連携に大変期待しています。
- ・今回のような地域住民も参加できる研修
- ・介護されないように常に気を付けて楽しく過ごす。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(看護師)

- ・家庭で家族がどの様に介護していけば良いのか。独居の人に対しては近隣、地域の方々がどの様に接して行くべきか。
- ・脳卒中を予防するための生活について。食事や運動など。

(准看護師)

- ・看取りと在宅看取り
- ・お互いを理解すること。対象者を一番に考えること。

(歯科衛生士)

- ・精神病について

(社会福祉士)

- ・家族の抱える問題について（ケース等）
その問題解決のポイントをテーマにして欲しい。
- ・介護方法を医療の立場で教えて欲しいです。
- ・地域住民への認知症のことを伝える方法（実際に動画を見ることは分かりやすく良かった。）
- ・やっと思っていると思います。

(介護福祉士)

- ・生活習慣病予防。
- ・褥瘡について

(介護支援専門員)

- ・介護職のサポート、勉強会、ディスカッションする場の提供。
- ・認定制のような積み重ねていく研修会の開催
- ・認知症ケア「ユマニチュードについて」の研修。
介護保険制度の中で医療サービスとして、通所リハビリや短期入居療養介護を利用するときに、医師の意見書を確認しなければならないが、短時間で利用者の負担、医師の負担なく確認できるツールや手段などについての研修。

- ・本日の研修で一関で脳梗塞発症ワースト1との事、脳梗塞を発症しないためにどうすれば良いかの研修が必要と思います。
- ・施設やグループホームの現状を医療関係者にも知って欲しい。(例、胃瘻造設で入所し易くなる訳ではない、認知症のショート利用も制限される等)
- ・訪問診療と総合診療の充実
- ・医療職と介護職の交流。
- ・看取りについての事例

(介護員)

- ・日常の実際の対応の仕方について重点をおいて頂きたい。
- ・もう少しゆっくり詳しく・・・
- ・認知症の内容をもっと詳しく。

(医療関係者)

- ・認知症について言えば関係者だけではなく、これから社会に出る中学生、高校生に対する教育が有効と考える(認知症にならない方法など)
- ・これからもお願いしたい。

(行政関係者)

- ・医療・介護の現場の職員がざくばらんに意見交換できるような機会がないと、顔のつながりはそう簡単にできないと思います。

(その他)

- ・地区にある公民館等を利用して、老人にできる体操等をしてほしい。
- ・地域住民との連携も大事だと思います。
- ・テーマに沿った内容で事例をもっと挙げて頂けると良かったです。実際、家族の問題として「認知症」はテーマとして良かったです。先生のお話、参考になりました。
- ・研修があれば、できる限り参加し地域内のことについても更に分かるようにし対処したい。本日はありがとうございました。
- ・年を取ってきて若い人たちがいないため、医療と介護の必要があつて欲しいです。お話を聞いて良かったです。家族で見守って行かなければいけないことである。
- ・介護する家族が休める体制と施設(認知症の方が入所する所)
- ・施設の充実・増設に
- ・情報共有が幅広くできること。
- ・大きい病院にかかりたくても、紹介状とかがないと診てもらえない。困っています、何とかならないでしょうか。
- ・自分も介護2級の資格を取らせてもらいましたが、今は病気にならないようにしています。
- ・身近なところの見守り、大切、近所、どの程度までの必要か。
- ・子育て世代ですので、子供の医療などの研修会。
- ・話し合いが大切。

自由記載欄

(准看護師)

- ・認知症で「加速度的増加は、特に低中所得国」とありますが、なぜですか？質問できませんでした。解釈として、低い栄養と、生活習慣病が関係するのですか？

(介護員)

- ・気仙沼から岩手に通っています。今の会社で一番若いと期待を持たれプレッシャーを感じています。(21歳)また、知識も少ないため、今回の認知症の話聞いてとても良かったです。また参

加したいと思います。

(その他)

- ・本日、自宅に介護保険料の金額記載された切符が送付になったが、自分もその年になったのかなと思った。
しかし、なるべく自己完結で生きていきたい。
- ・有意義な研修になりました。
- ・今日はありがとうございました。いろいろ学び理解していくことが大事でしょうか？

平成26年度第2回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日時 平成26年7月30日(水)
14:00～16:00
 - (2) 場所 一関市役所 2階 大会議室
 - (3) 目的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業者、行政関係者等
 - (5) 参加者 276名
 - (6) 主催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成26年度 第2回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成26年7月30日(水)

14:00～16:00

場所：一関市役所

2階 大会議室

次 第

1 開 会 14:00

2 挨拶

3 講 演 14:15～15:45

「『認知症』正しい知識と最新治療・効果的なケア」

講 師 独立行政法人 国立病院機構 岩手病院 院長 千田 圭二 氏

4 行政報告 15:45～16:00

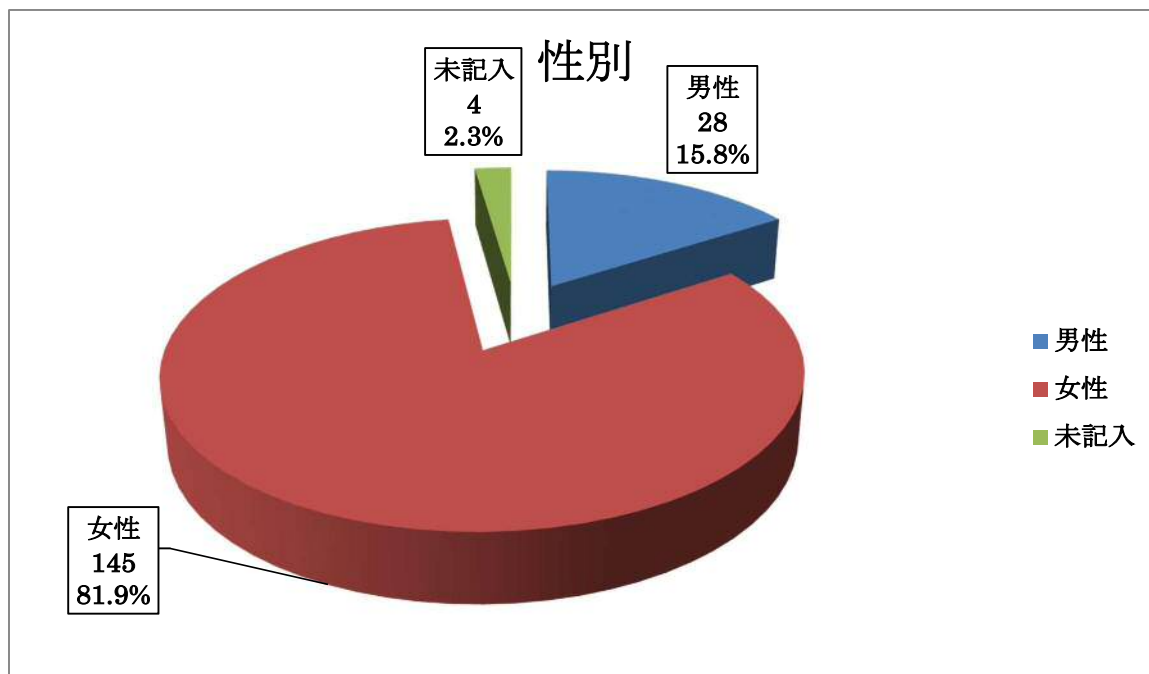
5 閉 会 16:00

2 アンケートの集計結果

回答者数 177 人 (回収率 64.1%)

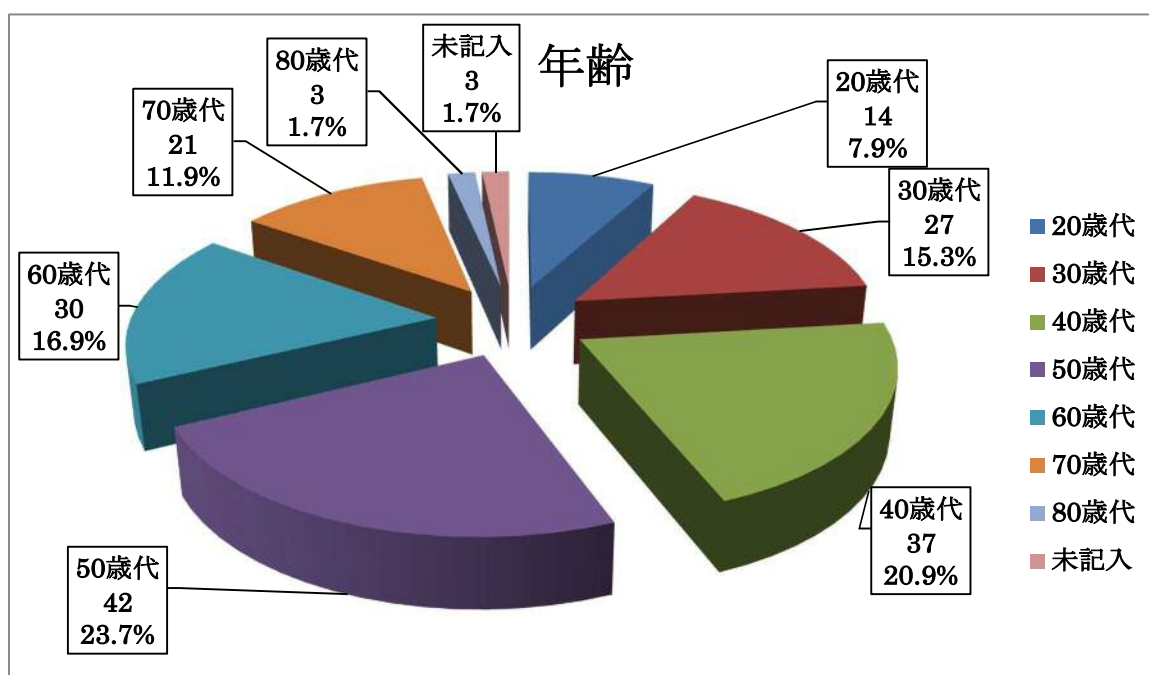
質問1 性別

男性 28 人 (15.8%)
女性 145 人 (81.9%)
未記入 4 人 (2.3%)



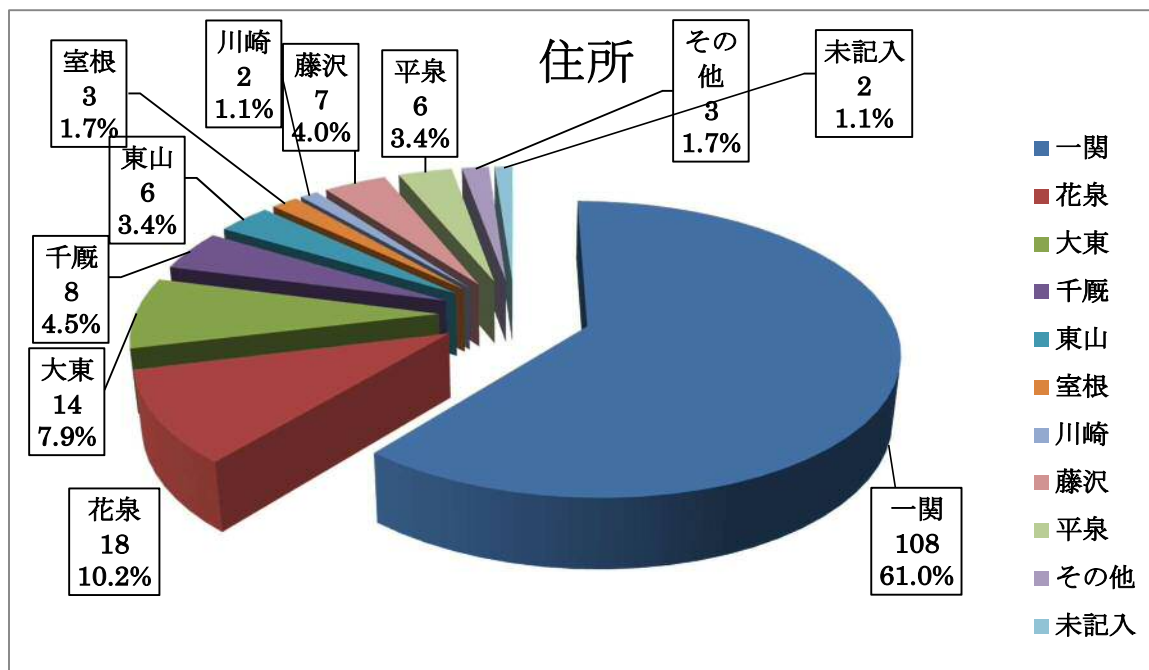
質問2 年齢

| | | | |
|------|--------------|------|--------------|
| 20歳代 | 14 人 (7.9%) | 30歳代 | 27 人 (15.3%) |
| 40歳代 | 37 人 (20.9%) | 50歳代 | 42 人 (23.7%) |
| 60歳代 | 30 人 (16.9%) | 70歳代 | 21 人 (11.9%) |
| 80歳代 | 3 人 (1.7%) | 未記入 | 3 人 (1.7%) |



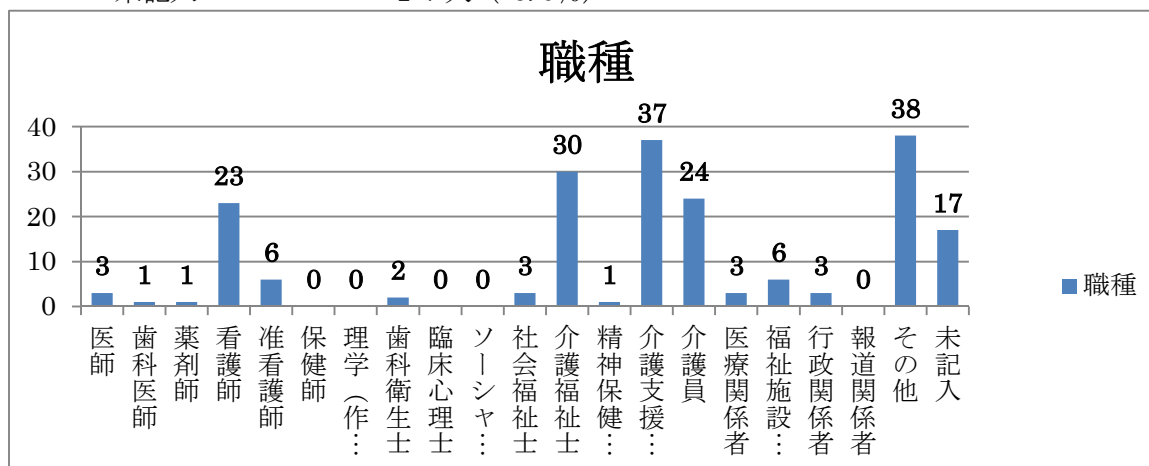
質問3 住所

| | | | |
|-----|--------------|-----|-------------|
| 一 関 | 108人 (61.0%) | 花 泉 | 18人 (10.2%) |
| 大 東 | 14人 (7.9%) | 千 厩 | 8人 (4.5%) |
| 東 山 | 6人 (3.4%) | 室 根 | 3人 (1.7%) |
| 川 崎 | 2人 (1.1%) | 藤 沢 | 7人 (4.0%) |
| 平 泉 | 6人 (3.4%) | その他 | 3人 (1.7%) |
| 未記入 | 2人 (1.1%) | | |



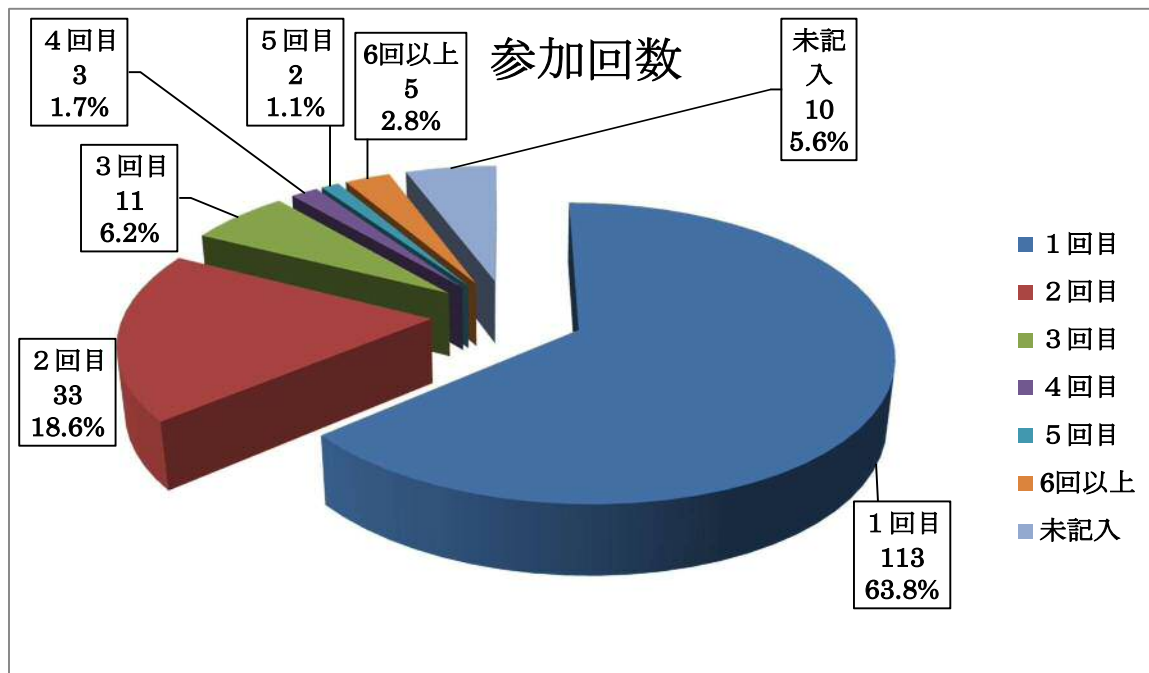
質問4 職種

| | | | |
|-----------|-------------|-----------|-------------|
| 医師 | 3人 (1.5%) | 歯科医師 | 1人 (0.5%) |
| 薬剤師 | 1人 (0.5%) | 看護師 | 23人 (11.6%) |
| 准看護師 | 6人 (3.0%) | 保健師 | 0人 (0.0%) |
| 理学(作業)療法士 | 0人 (0.0%) | 歯科衛生士 | 2人 (1.0%) |
| 臨床心理士 | 0人 (0.0%) | ソーシャルワーカー | 0人 (0.0%) |
| 社会福祉士 | 3人 (1.5%) | 介護福祉士 | 30人 (15.2%) |
| 精神保健福祉士 | 1人 (0.5%) | 介護支援専門員 | 37人 (18.7%) |
| 介護員 | 24人 (12.1%) | 医療関係者 | 3人 (1.5%) |
| 福祉施設関係者 | 6人 (3.0%) | 行政関係者 | 3人 (1.5%) |
| 報道関係者 | 0人 (0.0%) | その他 | 38人 (19.2%) |
| 未記入 | 17人 (8.6%) | | |



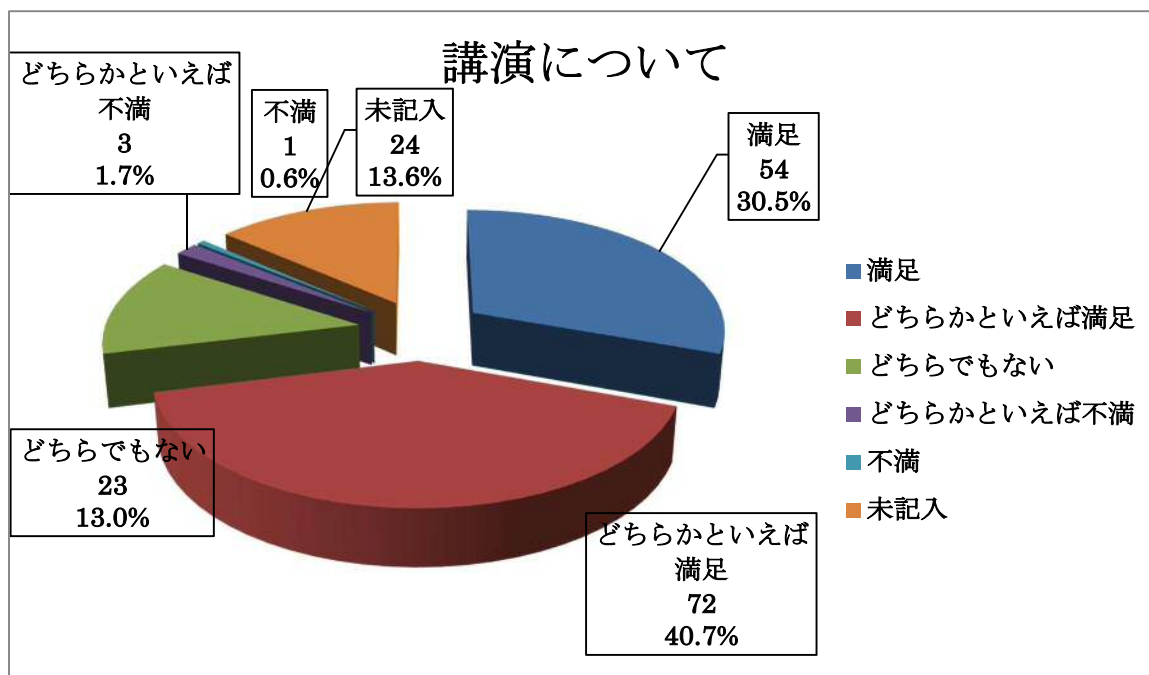
質問5 参加回数

| | | | | | |
|-----|--------------|-----|-------------|------|------------|
| 1回目 | 113人 (63.8%) | 2回目 | 33人 (18.6%) | 3回目 | 11人 (6.2%) |
| 4回目 | 3人 (1.7%) | 5回目 | 2人 (1.1%) | 6回以上 | 5人 (2.8%) |
| 未記入 | 10人 (5.6%) | | | | |



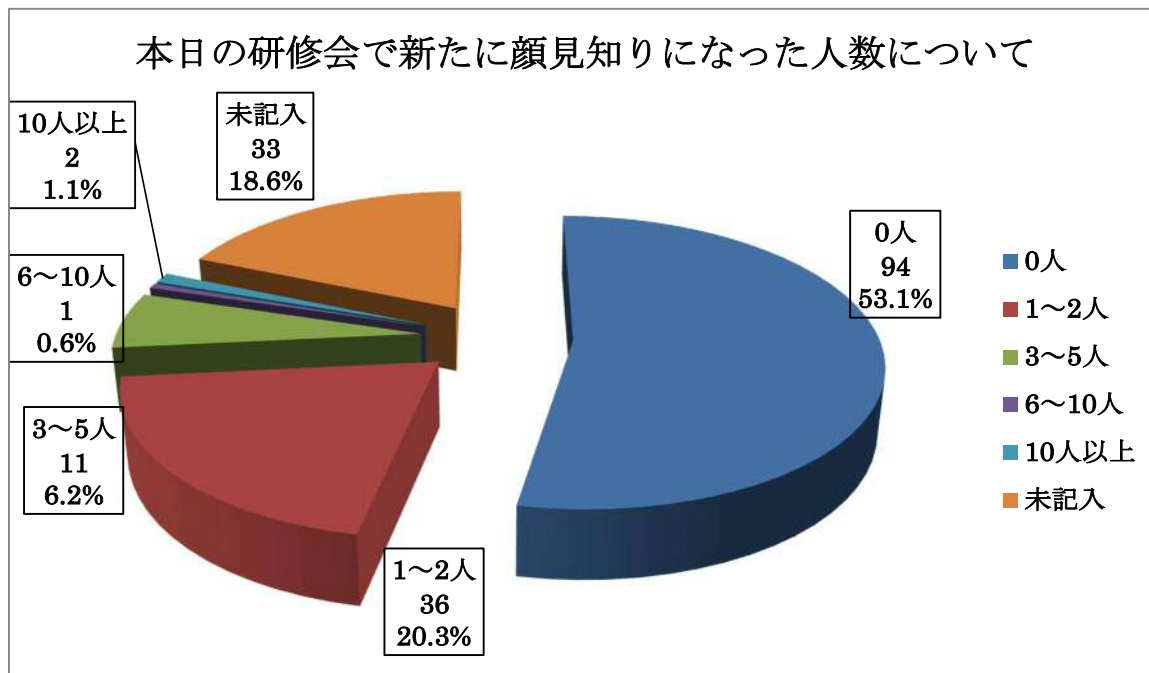
質問6 講演について

| | | | |
|---------|-------------|------------|-------------|
| 満足 | 54人 (30.5%) | どちらかといえば満足 | 72人 (40.7%) |
| どちらでもない | 23人 (13.0%) | どちらかといえば不満 | 3人 (1.7%) |
| 不満 | 1人 (0.6%) | 未記入 | 24人 (13.6%) |



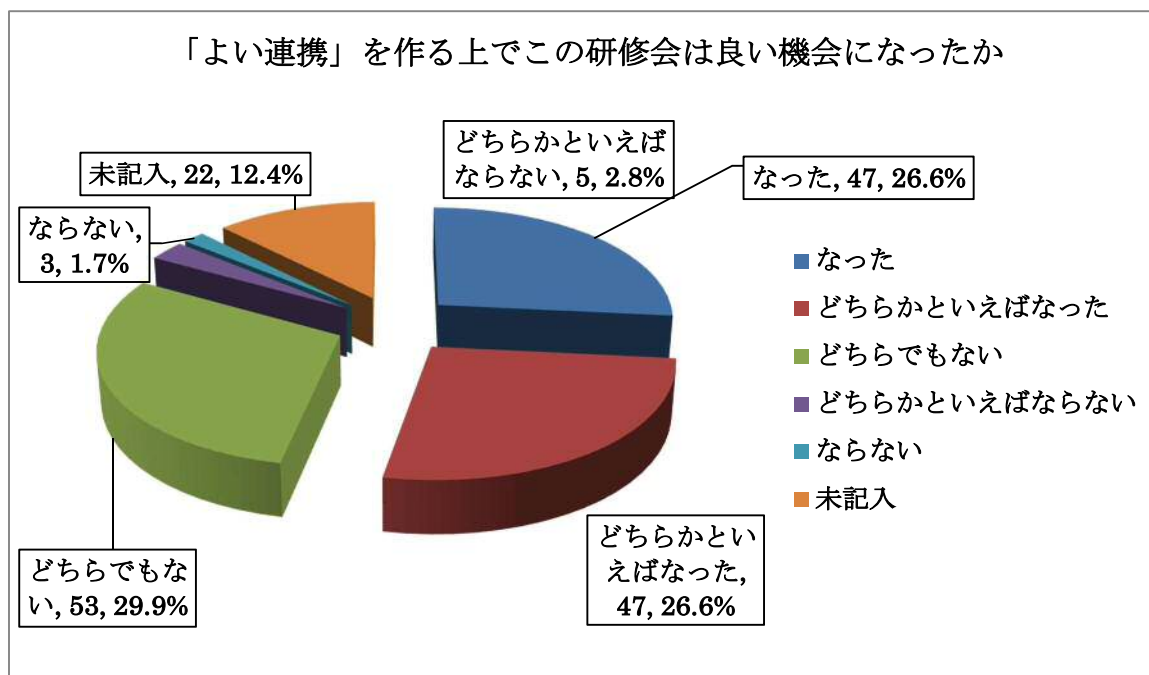
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

| | | | |
|-------|-------------|-------|-------------|
| 0人 | 94人 (53.1%) | 1～2人 | 36人 (20.3%) |
| 3～5人 | 11人 (6.2%) | 6～10人 | 1人 (0.6%) |
| 10人以上 | 2人 (1.1%) | 未記入 | 33人 (18.6%) |



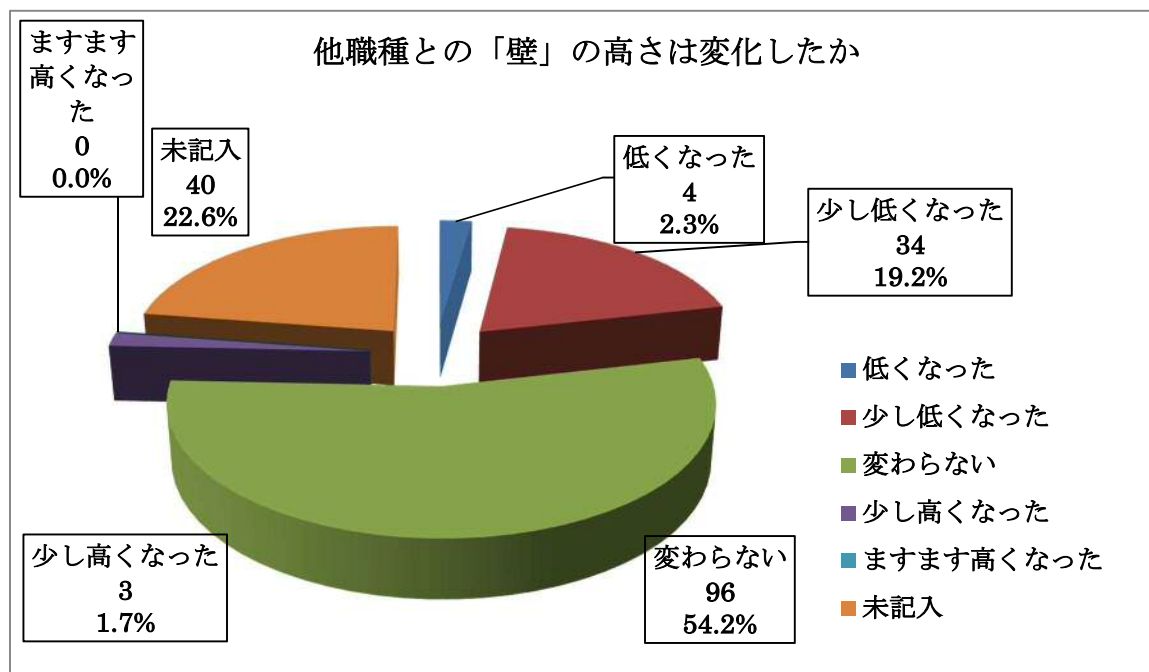
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

| | | | |
|---------|-------------|--------------|-------------|
| なった | 47人 (26.6%) | どちらかといえばなった | 47人 (26.6%) |
| どちらでもない | 53人 (29.9%) | どちらかといえばならない | 5人 (2.8%) |
| ならない | 3人 (1.7%) | 未記入 | 22人 (12.4%) |



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

| | | | |
|-----------|-------------|---------|-------------|
| 低くなった | 4人 (2.3%) | 少し低くなった | 34人 (19.2%) |
| 変わらない | 96人 (54.2%) | 少し高くなった | 3人 (1.7%) |
| ますます高くなった | 0人 (0.0%) | 未記入 | 40人 (22.6%) |



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・家族、地域との連携がより重要である。

(看護師)

- ・ネットワーク。
- ・職場、専門職員は病気等分かりますが、一般の方も入りやすいセミナーにして欲しいと思います。
- ・一連の情報共有。病院、家族、介護施設など、同じ情報を同じように共有できればスムーズに進められる事も多いと思う。病院に来て、家族が話すこと、介護関係者が話すことが少し違ったり、情報が欲しいと思うとき、ケアマネさんが来院したりと手間があると思う。どうにかみんなで共有できればと思います。
- ・正しい情報の共有、理解。
- ・信頼関係、コミュニケーションが大切ではないかと思えます。
- ・医療機関 = 施設 = 患者間の繋がりを広げられれば良いのですが。
- ・みんなで考えること。
- ・認知症と診察され、朝・夕の薬を処方されましたが最近症状がひどくなり南光病院紹介となり、昼も薬追加されました。
- ・信頼関係。
- ・一人暮らしで病院受診する方、薬の管理がうまくいかずご家族の協力も得られない場合どうしたらよいか分からない。医療と介護サービスの連携がうまくいかない。本人は担当のケアマネさんも分からず困ることが多いです。在宅でヘルパーさん同伴の病院受診が見られないように思います。
- ・それが知りたかったです。
- ・リンクローカーをどのように発信するのか？
- ・お互いの職種を理解すること。意見交換の場を持つこと。機会を作ること。

- ・定期的な会議。
- ・意見交換が思うように出来ないので、患者さんの様子がよく分からないので、医療と介護間のノートがあったら良いと思う。家族には知らされているようなのでそのノートを病院でも見られるように話してくれても良いのかな？と思う。
- ・研修会を重ねて行く事で、お互いが共有できるのではと思う。

(准看護師)

- ・在宅サービス利用中に体調を悪くされる方がいるのですが、病院の受け入れを拒否されることがあります。生死に関わる事もあるかもしれないので拒否がないように出来ないものでしょうか。(かかりつけ医でも断られることがあります。)

(介護福祉士)

- ・顔見知りになる。話す。
- ・関わりのある全ての人の連携が必要だと理解すること。
- ・どこの病院、施設へ行っても同じ考え方でケアを出来る情報を共有できるものがあると良いと思います。
- ・情報の交換。
- ・情報の共有と各職種をお互いに理解すること。各専門家としてお互いを尊重すること。
- ・積極的な担当者会議の参加。(あまり医療関係者が参加されていない。)
- ・交流。
- ・報告、連絡、相談(ほうれんそう)が必要なことだと思います。

(介護支援専門員)

- ・お互いが連携を意識すること。片方だけではできない。
- ・お互い顔の見える関係にあること。
気軽に相談できる環境があること。
- ・医療側、介護側お互いの知識を増やすこと。
話し合いを持つこと。(研修会やグループワークで交流する)
- ・具体的な情報を提供すること。
- ・家族の早期発見、地域との連携。
- ・研修会。自己紹介の場を作るとか、飲み会をやるとか。
- ・お互いに物事を決めつけないで連携することだと思います。
医療は医療、介護は介護と区別するのでなく、あくまでも利用者の流れで行うことが良いのではないかと思います。
- ・お互いの状況、持っている知識の理解と、お互いを信用する事が大切だと思います。
- ・お互いの立場から現状を伝えるが、うまく伝えられないことがあるので、簡易でわかりやすいシートなどがあれば良いのではないかと思います。
- ・できるだけ一般の人にも、広く理解を求める。今回のような研修をきっかけにする。
- ・介護職の方の意見を出せる環境を作ること。連携する内容ごとに窓口があれば助かるのではないかと思います。
- ・他職種の方の仕事を尊重して、理解し、顔が見える関係を作ることが大事。
- ・情報が共有できて、自宅で過ごすための留意点ができること。

(介護員)

- ・情報の共有。
- ・医療の必要性をご家族様に理解頂く指導を強く求めます。
なぜ？施設に入所してしまうと、家族は遠のく傾向にある。症状が進行するでしょう？
- ・様々な情報交換を行っていくこと。
- ・相互の理解とコミュニケーション(情報交換)。
- ・コミュニケーション。

- ・医療の連携があれば対応の仕方など対策をとれたらいろいろ分かって良いと思います。
- ・相互理解をもつ。

(医療関係者)

- ・顔を知ること。相談できることが大事。介護者や関係者のストレスケアも必要。

(福祉施設関係者)

- ・信頼関係。
- ・今日は連携とは直接関係のない講演でした。
- ・関係スタッフの増員。

(行政関係者)

- ・信頼。互いの研修、コミュニケーション。

(その他)

- ・介護人の精神的・肉体的負担。
- ・専門すぎて少し難しかったです。
- ・笑顔での対応が大切かと日頃思います。
- ・職種の壁を越えての交流・情報共有。
- ・情報交換。
- ・情報交換をする場を多く持ち、お互いの立場を理解しながら連携すれば良いのではないですか。
- ・思いやりと優しさで接する。医療を行う側と介護を行う側それぞれのメリットを確認し合い、それぞれサポートすることだと思います。私の体験上、近しい身内の人間が辛い思いをしていることがはっきりして安心しました。いろいろ思い当たることが多く良い勉強をさせて頂きました。
- ・「こうして認知症は改善できた」等の体験談の発表、データの公開などの工夫もしてほしい。特に地域全体で取り組んだ例、取り組んでいる例なども紹介して欲しい。
- ・医療側の受け入れを「年だから」と済まさず、一人の人間として診察して頂きたい。正しい服薬、対応をお願いしたい。
- ・質問を聞いて思ったことを書きます。
テレビは午後の時間帯（お年寄りがよく見るような時間帯）サスペンス系のものがよく放映されています。このような、内容のテレビを見ていて、妄想や思いこみ等に影響するのではないかと思うことがありますか？
また、症状が進んでくると、ストーリーを追えなくなって、テレビを集中して見る事が出来なくなってきます。そうするとテレビは見ているのではなく、ただ流れてるものでしかないように思います。今、臨床美術（クリニカルアート）が注目されています。そのような研修も施設の方々（スタッフ）が受けられると利用者の方々のQOLが上がるように思います。
- ・一般で参加。内容難しい（医療専門の人と同じでは）。
- ・事例をもとにした現場の情報を共有し連携すること。
- ・もう少し具体的にお願いしたい。
- ・認知症についての話が聞く機会ができて良かったです。さらに、認知症の方を介護して家族、職員の疑問等について回答してもらえると良いかと思います。
- ・今の所思いつきません。
- ・老人ホーム等の施設に定期的な医師の訪問等があると助かるなどと思います。
- ・スムーズな連携。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(薬剤師)

- ・緩和ケア。

(看護師)

- ・神経難病と在宅について。
- ・脳梗塞、パーキンソン等の疾患について分かりやすく説明が受けられれば良いのですが。
- ・総合病院をもう一つ増やして欲しい。
- ・一人暮らしの方が体調悪く一人で病院受診された場合の援助。連絡の方法、地域によって主に連絡するところが知りたい。その方がどの程度のサービスをうけているのか分からないので連携できる方法はあるのか？
- ・一関市としてパラメディカルの連携をどうつないでいくのか具体的に知りたい。

(歯科衛生士)

- ・精神疾患、子供・大人のADHD、アスペルガーなど。

(介護福祉士)

- ・今回のようなテーマや身近なテーマ（排泄・食事・栄養・住環境 etc・レク）新人介護職員を対象にした新人研修会。
- ・同行援護、ガイドヘルパー。
- ・もっと介護の現場からの視点や何も知らない市民に対して寄り添うことも大切。
- ・システムの流れを具体的に図形化して欲しい。
- ・事例を上げてどの様に対応したらよいかアドバイスを頂きたい。

(介護支援専門員)

- ・退院してからの受け皿が不足しているので、その辺を。
- ・インターネットで介護保険施設の空床・入所待ち情報の確認をしましたが、更新日はずいぶん前の古いのが沢山ありました。毎月1日には更新するなど、ルールを決めてはどうでしょうか。
- ・介護・医療の現場の現状等スライドを使って勉強したい。
現場の生の声を聞ける（施設、家族、医療従事者）研修
- ・病気・疾患について（研修会を通して知識がつくようなもの）
認知症の具体的なケアについて（各施設で取り組んでいること、対応）
- ・パーキンソンについても何かと併せて勉強会希望したい。
- ・開業医、訪問診療の理解・連携（入院受け入れ病院も含める）
看取りの研修、一般家庭への普及、罪悪感（看取り時に病院へ受診しないこと）→自然死へのすすめ。
- ・優しい心の街作り。
- ・認知症のケアについて研修に取り組んで頂きたい。
- ・認知症の研修が多くなっているが（テレビで見ましたが）ユマニチュード魔法の技術を学ぶ機会があれば良いと思っていますので、よろしく願います。
- ・在宅での看取りについて、今後、グループホームやサ高住、有料老人ホームが増えているが、そこでの医療連携について、（一人暮らしの人は、このようなすみかえが必要になってくる）その場の医療・介護の連携について。
- ・1症例（困難事例）の問題解決症例など。例えば・・・と実際にイメージできる内容も良いと思います。
- ・講演も必要だとは思いますが、座学ではなくグループディスカッション等であれば他職種との関係が近づき易いと思います。

(介護員)

- ・施設運営者への介護者の職員の環境向上への指導を。
- ・介護福祉士等の資格を取る方のための学習、情報等を学べる場。
- ・具体的な連携（事例）内容。
- ・相互の現状問題、課題の取り組みや、ディスカッション。
- ・介護で認知になった方がなかなか施設に入れない方々が多い。本人の意思で入るのは難しい。介護者の負担もっと減らして欲しい。
- ・褥瘡のある方に対するポジショニングについて。
食事介護と食事形態について
- ・情報交換、お互いの理解。
- ・横のつながりを密にする。同業者の人との交流。

(福祉施設関係者)

- ・経営者のディスカッションと専門家の意見の提供。
- ・全国に先駆け、高齢者対策を行政、関係機関、民間資源を含め、全国に注目され「お～!!」と言われる事業。これまでになかった施策を実現する為の取組、研修を。若手の意見をもっと聞く!!

(その他)

- ・高齢者と睡眠の関係。
- ・もう少し具体的な対応の仕方を聞きたい。
- ・パーキンソン（レビュー小体型）と云われ的確な診療を頂き安心した余生を送らせて頂きこころより感謝しております。関係者の方々のすばらしい早急の連携プレーに厚く御礼いたします。

平成26年度第3回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成26年9月13日(土)
14:00～16:30
 - (2) 場 所 花夢パル ドリームホール
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 33名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成26年度 第3回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成26年9月13日(土)

14:00～16:30

場所：花夢パル ドリームホール

次 第

1 開 会 14:00

2 挨 拶

3 グループワーク 14:05～16:30

テーマ「口腔ケア、こんな時どうしよう」

グループワーク講師 ヨシハラ歯科医院院長 吉原 睦 氏 14:05～15:00

グループワーク作業 15:00～16:00

プレゼンテーション、討議 16:00～16:30

4 閉 会 16:30

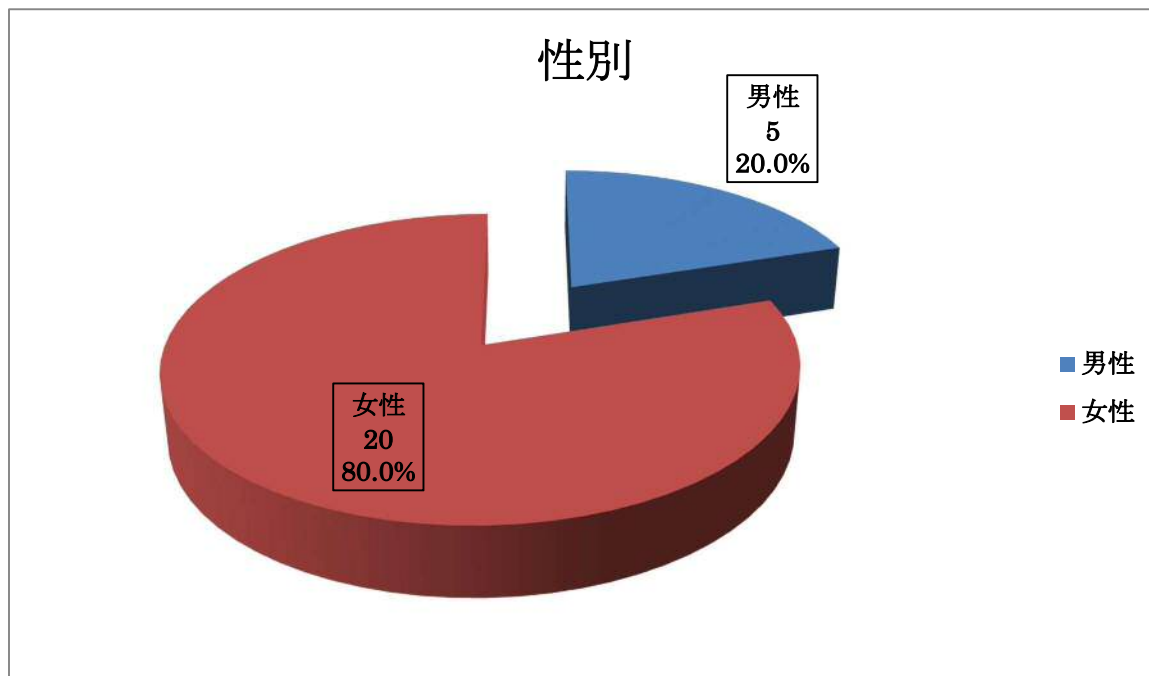
2 アンケートの集計結果

回答者数 25 人 (回収率 75.8%)

質問1 性別

男性 5 人 (20.0%)

女性 20 人 (80.0%)



質問2 年齢

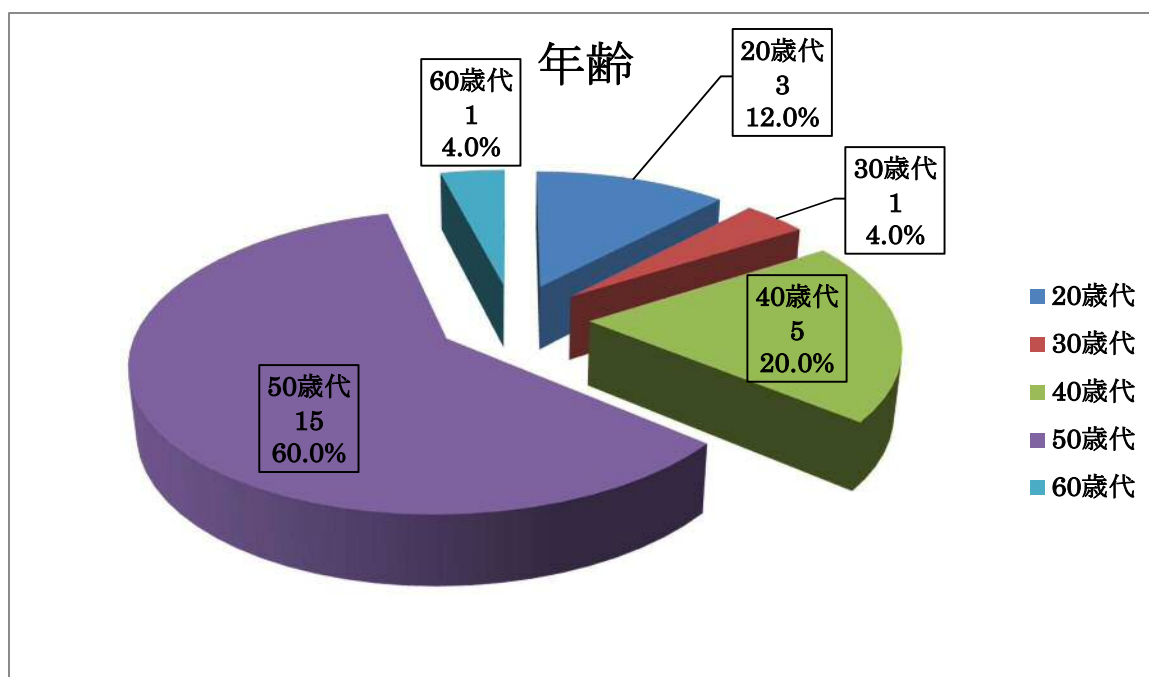
20歳代 3 人 (12.0%)

30歳代 1 人 (4.0%)

40歳代 5 人 (20.0%)

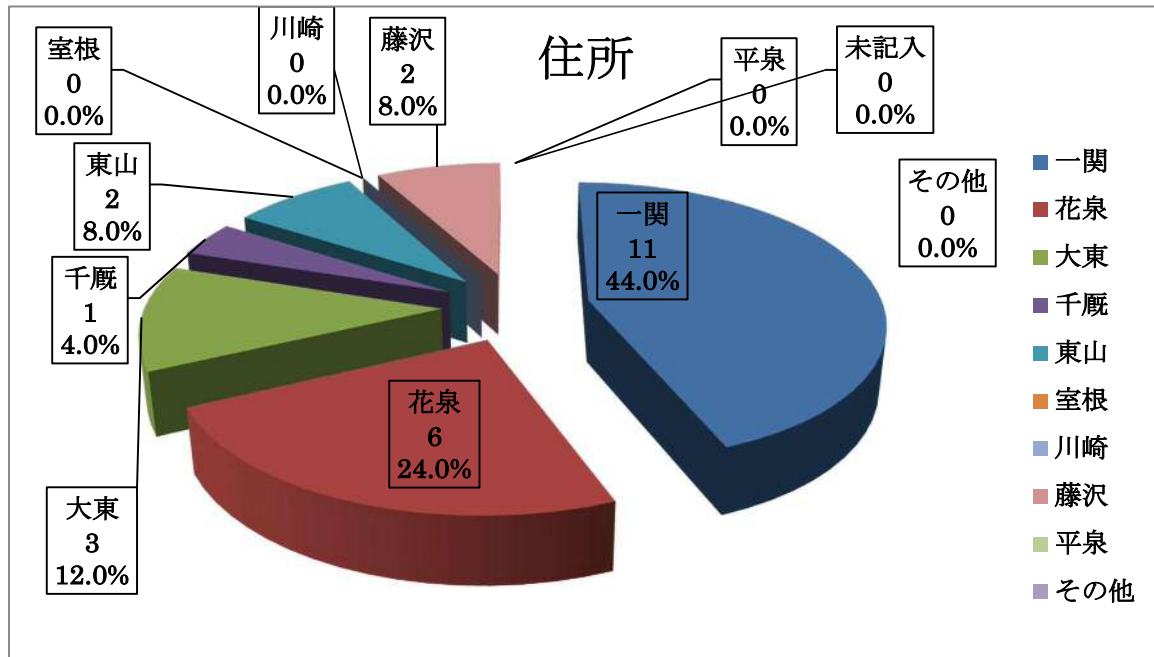
50歳代 15 人 (60.0%)

60歳代 1 人 (4.0%)



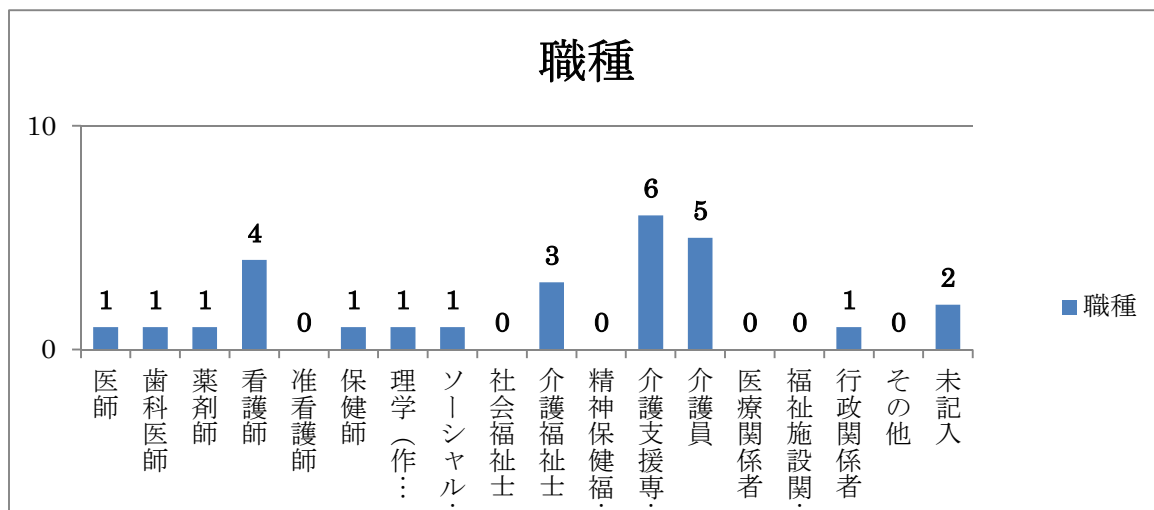
質問3 住所

| | | | |
|-----|-------------|-----|------------|
| 一関 | 11人 (44.0%) | 花泉 | 6人 (24.0%) |
| 大東 | 3人 (12.0%) | 千厩 | 1人 (4.0%) |
| 東山 | 2人 (8.0%) | 室根 | 0人 (0.0%) |
| 川崎 | 0人 (0.0%) | 藤沢 | 2人 (8.0%) |
| 平泉 | 0人 (0.0%) | その他 | 0人 (0.0%) |
| 未記入 | 0人 (0.0%) | | |



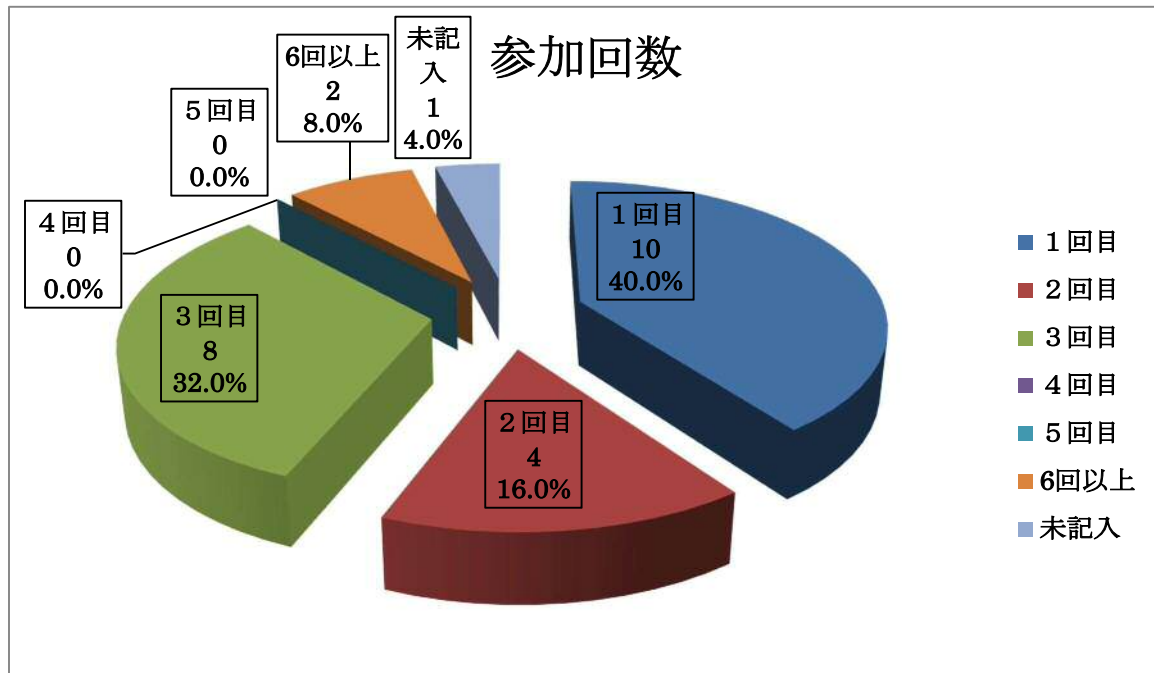
質問4 職種

| | | | |
|-----------|------------|-----------|------------|
| 医師 | 1人 (3.7%) | 歯科医師 | 1人 (3.7%) |
| 薬剤師 | 1人 (3.7%) | 看護師 | 4人 (14.8%) |
| 准看護師 | 0人 (0.0%) | 保健師 | 1人 (3.7%) |
| 理学(作業)療法士 | 1人 (3.7%) | ソーシャルワーカー | 1人 (3.7%) |
| 社会福祉士 | 0人 (0.0%) | 介護福祉士 | 3人 (11.1%) |
| 精神保健福祉士 | 0人 (0.0%) | 介護支援専門員 | 6人 (22.2%) |
| 介護員 | 5人 (18.5%) | 医療関係者 | 0人 (0.0%) |
| 福祉施設関係者 | 0人 (0.0%) | 行政関係者 | 1人 (3.7%) |
| その他 | 0人 (0.0%) | 未記入 | 2人 (7.4%) |



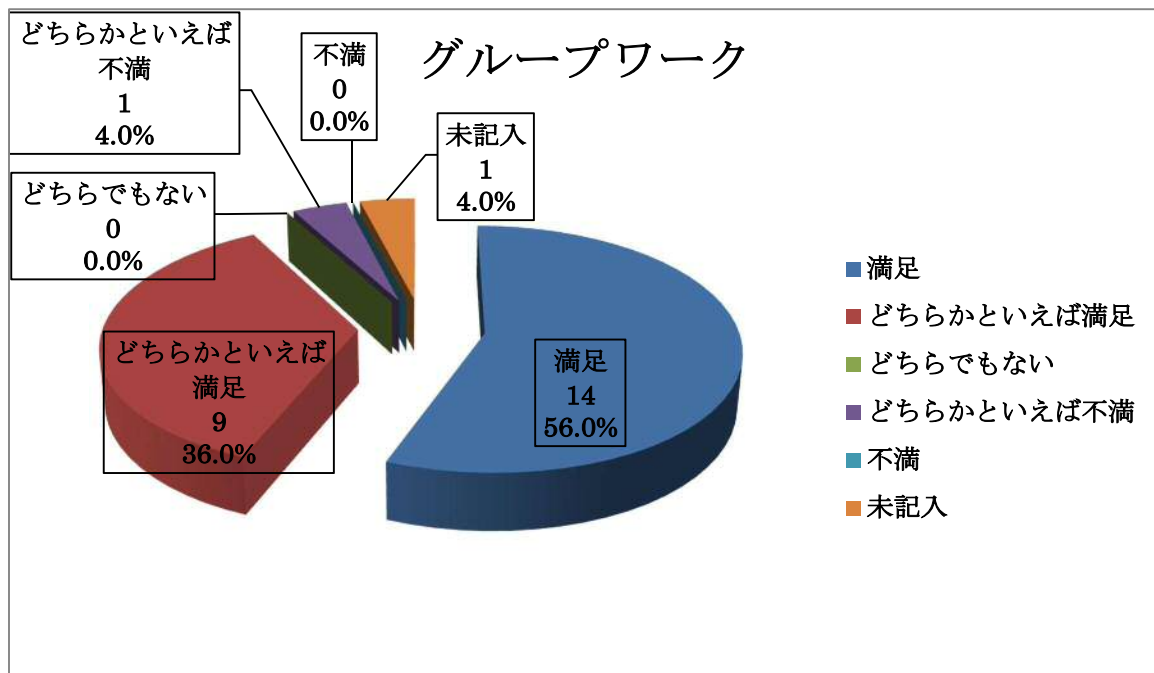
質問5 参加回数

| | | | | | |
|-----|-------------|-----|------------|------|------------|
| 1回目 | 10人 (40.0%) | 2回目 | 4人 (16.0%) | 3回目 | 8人 (32.0%) |
| 4回目 | 0人 (0.0%) | 5回目 | 0人 (0.0%) | 6回以上 | 2人 (8.0%) |
| 未記入 | 1人 (4.0%) | | | | |



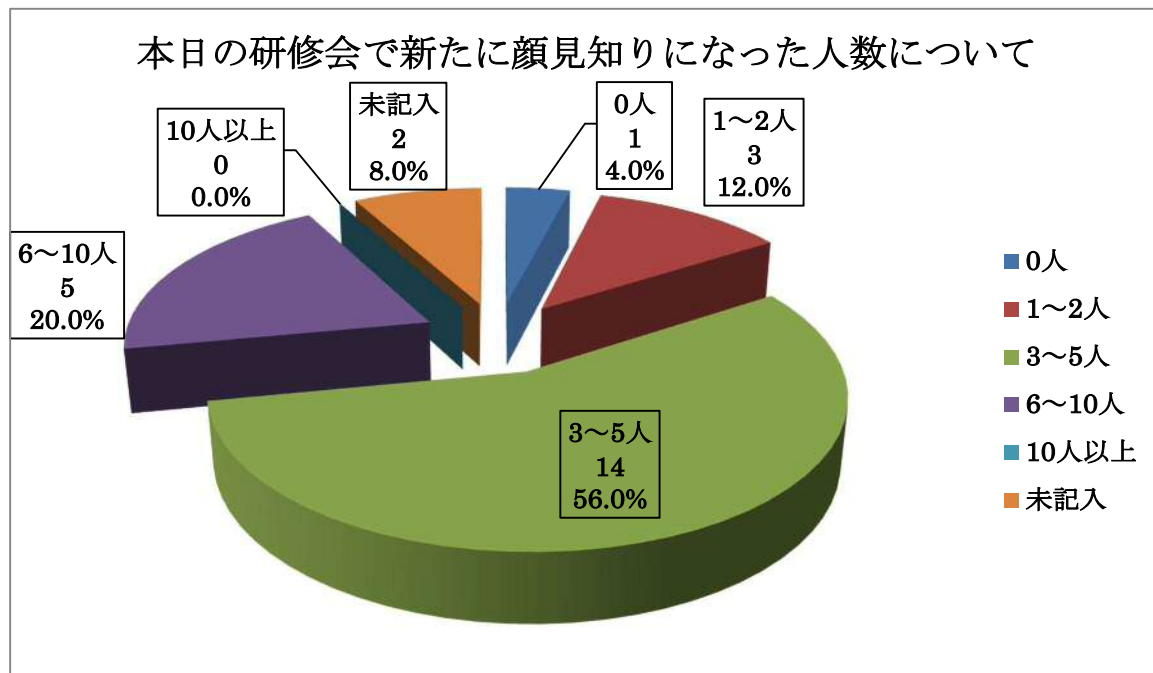
質問6 グループワークについて

| | | | |
|---------|-------------|------------|------------|
| 満足 | 14人 (56.0%) | どちらかといえば満足 | 9人 (36.0%) |
| どちらでもない | 0人 (0.0%) | どちらかといえば不満 | 1人 (4.0%) |
| 不満 | 0人 (0.0%) | 未記入 | 1人 (4.0%) |



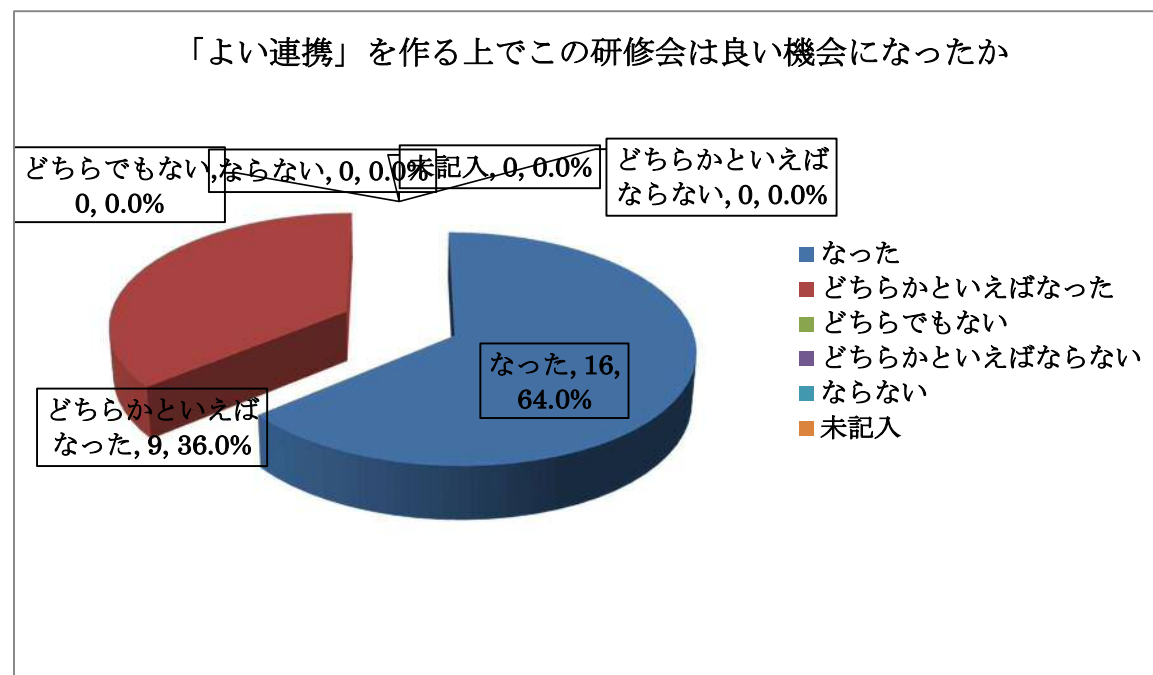
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

| | | | |
|-------|-------------|-------|------------|
| 0人 | 1人 (4.0%) | 1~2人 | 3人 (12.0%) |
| 3~5人 | 14人 (56.0%) | 6~10人 | 5人 (20.0%) |
| 10人以上 | 0人 (0.0%) | 未記入 | 2人 (8.0%) |



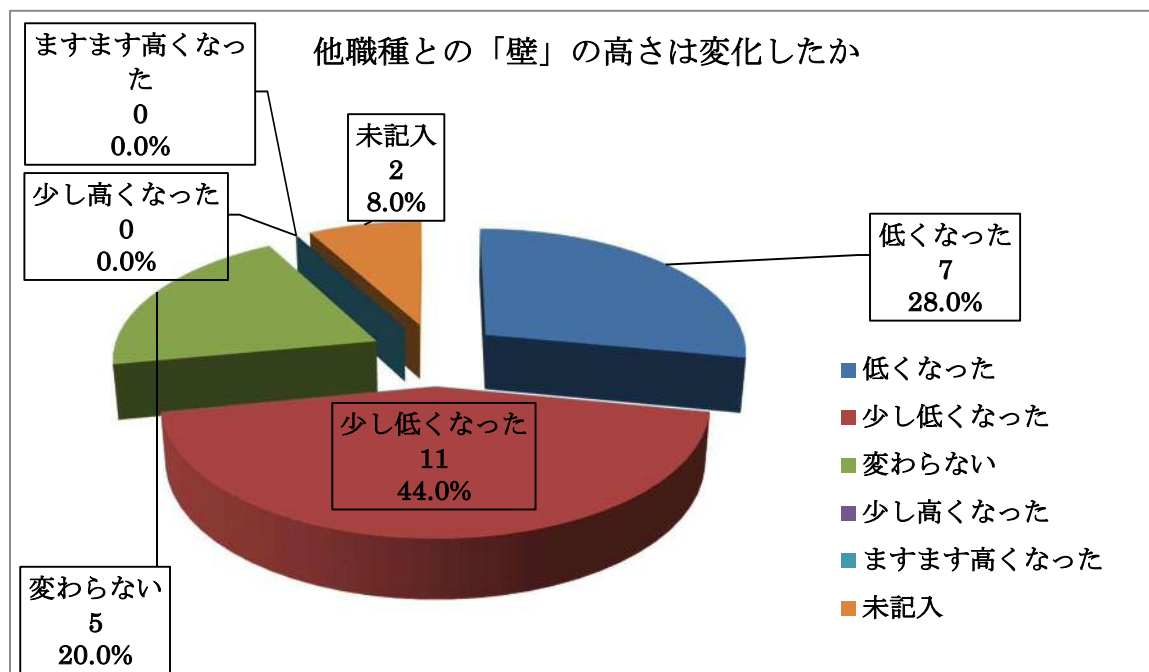
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

| | | | |
|---------|-------------|--------------|------------|
| なった | 16人 (64.0%) | どちらかといえばなった | 9人 (36.0%) |
| どちらでもない | 0人 (0.0%) | どちらかといえばならない | 0人 (0.0%) |
| ならない | 0人 (0.0%) | 未記入 | 0人 (0.0%) |



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

| | | | |
|-----------|------------|---------|-------------|
| 低くなった | 7人 (28.0%) | 少し低くなった | 11人 (44.0%) |
| 変わらない | 5人 (20.0%) | 少し高くなった | 0人 (0.0%) |
| ますます高くなった | 0人 (0.0%) | 未記入 | 2人 (8.0%) |



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・ワークショップの成果の成文化。

(歯科医師)

- ・他職種の事情を知る。顔の見える関係を作る。

(薬剤師)

- ・会話（思っている事の対話）、いろいろな職種、勉強になります。

(看護師)

- ・ブログで言えばリンクを貼っていろいろな施設の内容を紹介して欲しい。
- ・研修の参加者で医療側（病院の看護師など）の参加者が少ないと思いました。病棟から自宅への退院に向けて病院側からの意見ももう少し欲しいと思いました。介護の方々の意見やケアマネの方の意見はとても参考になりました。
- ・コミュニケーションが大切だと思います。医療、福祉、介護の重要性を痛感しております。

(理学（作業）療法士)

- ・この様なグループワークなど同じ場で話をすることとはとても良いと思います。

(ソーシャルワーカー)

- ・お互いが顔の見える話し合いができ、信頼関係が必要。

(介護福祉士)

- ・情報の共有。研修会への参加。

(介護支援専門員)

- ・まめに情報交換する。直接話す。
- ・相手を知る。
- ・研修、グループワークはとても大切だと思います。楽しかったです。

(介護員)

- ・現場への理解と協力が必要だと思います。
- ・情報の共有。
- ・現場での状況をしっかり伝え理解を深めていくこと。

(行政関係者)

- ・口腔ケアも含めて専門職の方だけの知識で終わらせないで、一般の方にも話題提供する必要があるのではないのでしょうか。

(その他)

- ・研修の機会を増やしコミュニケーションの場を増やす。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(医師)

- ・カリスマ歯科衛生士、牛山さんの口腔ケアの講演。

(看護師)

- ・連携の具体例などを知りたい。
- ・食事摂取、「むせ」に関すること。
- ・歯科と介護の連携は常に感じておりました。若いときからの歯科衛生が認知予防につながると思います。

(ソーシャルワーカー)

- ・入退院時の対応。退院時カンファレンスの調整と実行の問題点の改善。

(介護福祉士)

- ・介護職員同士の研修、現場での悩みや介護技術の向上研修。
- ・介護職員の人数を増やす。

(介護支援専門員)

- ・相談窓口を広げる。
- ・緊急時の（夜間）の連携の取り方。助かる命を守りたい。

(介護員)

- ・グループホーム。
- ・認知症の予防と認知症の方の接し方。

自由記載欄

(看護師)

・健康の入り口は口腔（歯）です。虫歯予防は認知予防となると信じています。よろしくお願ひします。今日はありがとうございました。

(ソーシャルワーカー)

- ・多職種の意見を聞くことができたので有意義でした。

平成26年度第4回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成26年11月15日(土)
14:00~16:30
 - (2) 場 所 一関市役所千厩支所
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 30名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

日時：平成26年11月15日(土)
14:00~16:30
場所：一関市役所千厩支所
2階 大会議室

次 第

1 開 会 14:00

2 挨 拶

3 グループワーク 14:05~16:30

テーマ「薬剤師の在宅訪問でできること」

グループワーク講師 こぶし薬局管理薬剤師 小野寺 佳美 氏 14:05~15:00

グループワーク作業 15:00~16:00

プレゼンテーション、討議 16:00~16:30

4 閉 会 16:30

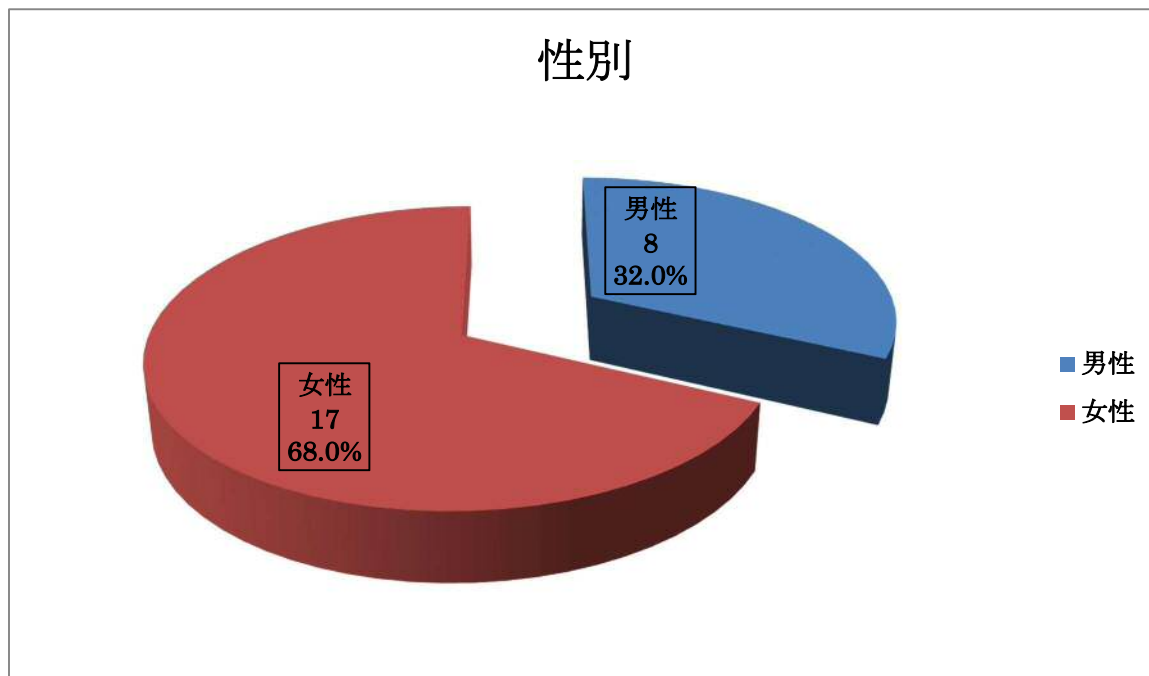
2 アンケートの集計結果

回答者数 25 人 (回収率 83.3%)

質問1 性別

男性 8 人 (32.0%)

女性 17 人 (68.0%)



質問2 年齢

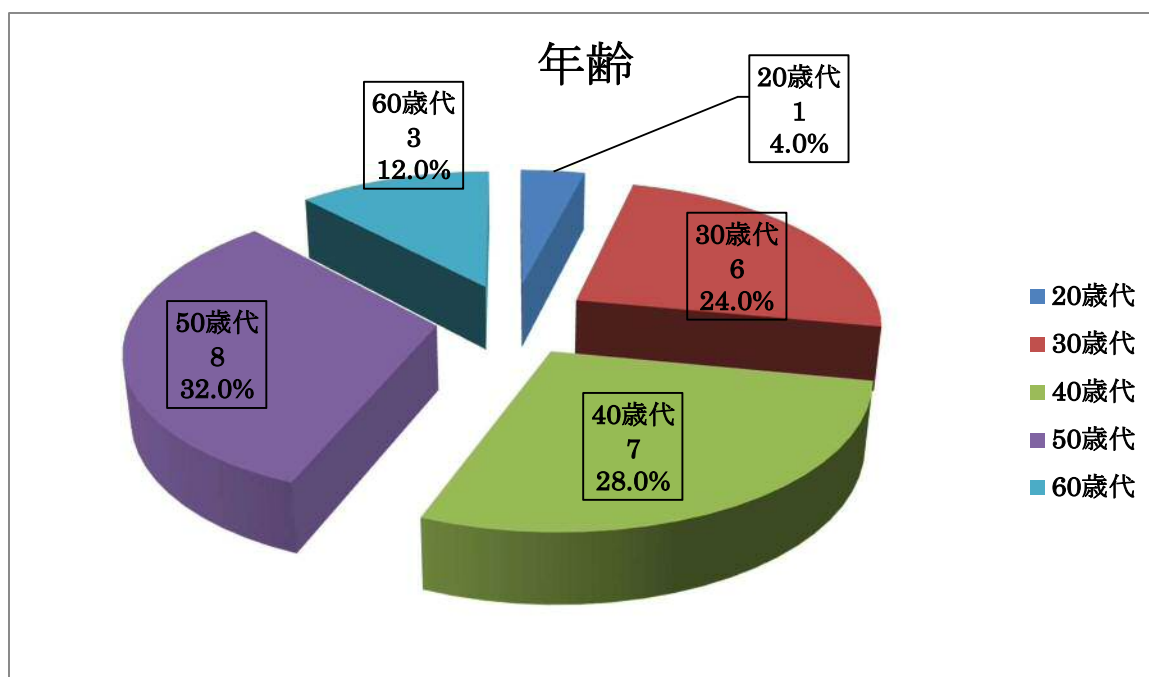
20歳代 1 人 (4.0%)

30歳代 6 人 (24.0%)

40歳代 7 人 (28.0%)

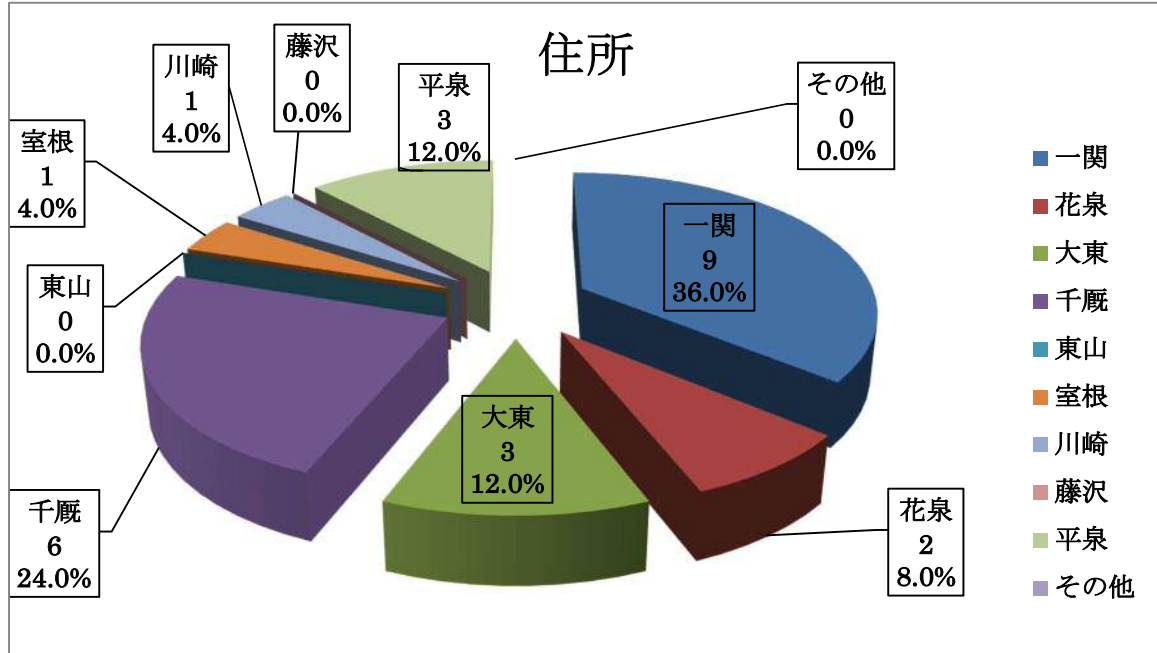
50歳代 8 人 (32.0%)

60歳代 3 人 (12.0%)



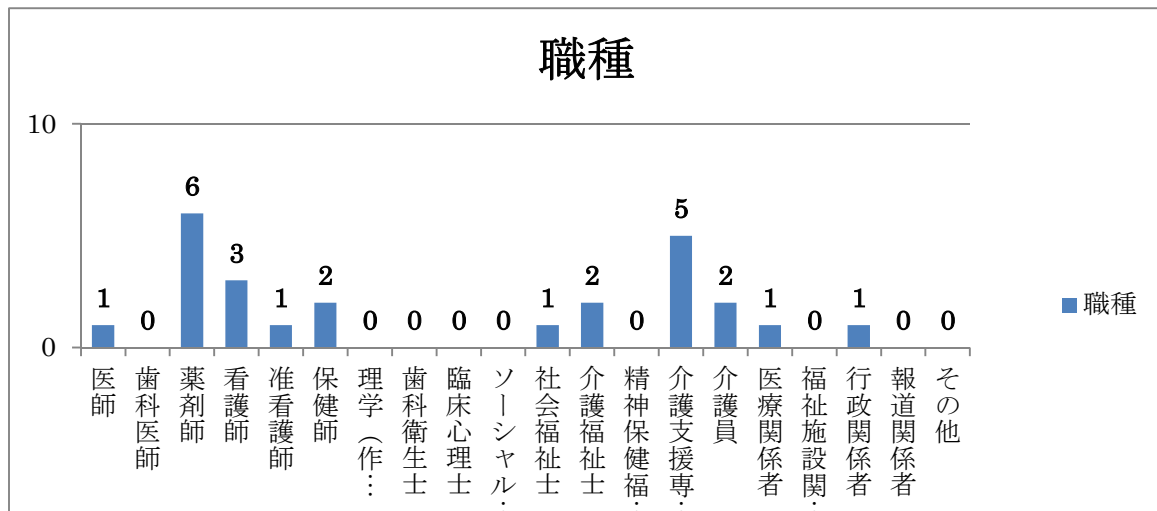
質問3 住所

| | | | |
|----|------------|-----|------------|
| 一関 | 9人 (36.0%) | 花泉 | 2人 (8.0%) |
| 大東 | 3人 (12.0%) | 千厩 | 6人 (24.0%) |
| 東山 | 0人 (0.0%) | 室根 | 1人 (4.0%) |
| 川崎 | 1人 (4.0%) | 藤沢 | 0人 (0.0%) |
| 平泉 | 3人 (12.0%) | その他 | 0人 (0.0%) |



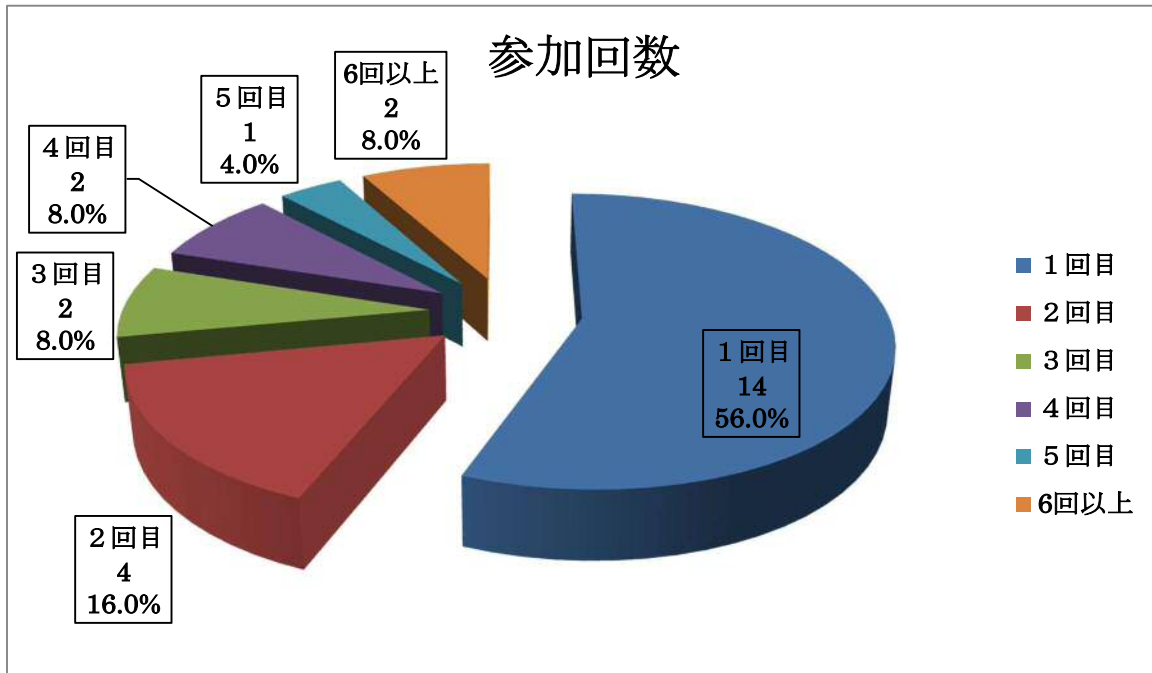
質問4 職種

| | | | |
|-----------|------------|-----------|------------|
| 医師 | 1人 (4.0%) | 歯科医師 | 0人 (0.0%) |
| 薬剤師 | 6人 (24.0%) | 看護師 | 3人 (12.0%) |
| 准看護師 | 1人 (4.0%) | 保健師 | 2人 (8.0%) |
| 理学(作業)療法士 | 0人 (0.0%) | 歯科衛生士 | 0人 (0.0%) |
| 臨床心理士 | 0人 (0.0%) | ソーシャルワーカー | 0人 (0.0%) |
| 社会福祉士 | 1人 (4.0%) | 介護福祉士 | 2人 (8.0%) |
| 精神保健福祉士 | 0人 (0.0%) | 介護支援専門員 | 5人 (20.0%) |
| 介護員 | 2人 (8.0%) | 医療関係者 | 1人 (4.0%) |
| 福祉施設関係者 | 0人 (0.0%) | 行政関係者 | 1人 (4.0%) |
| 報道関係者 | 0人 (0.0%) | その他 | 0人 (0.0%) |



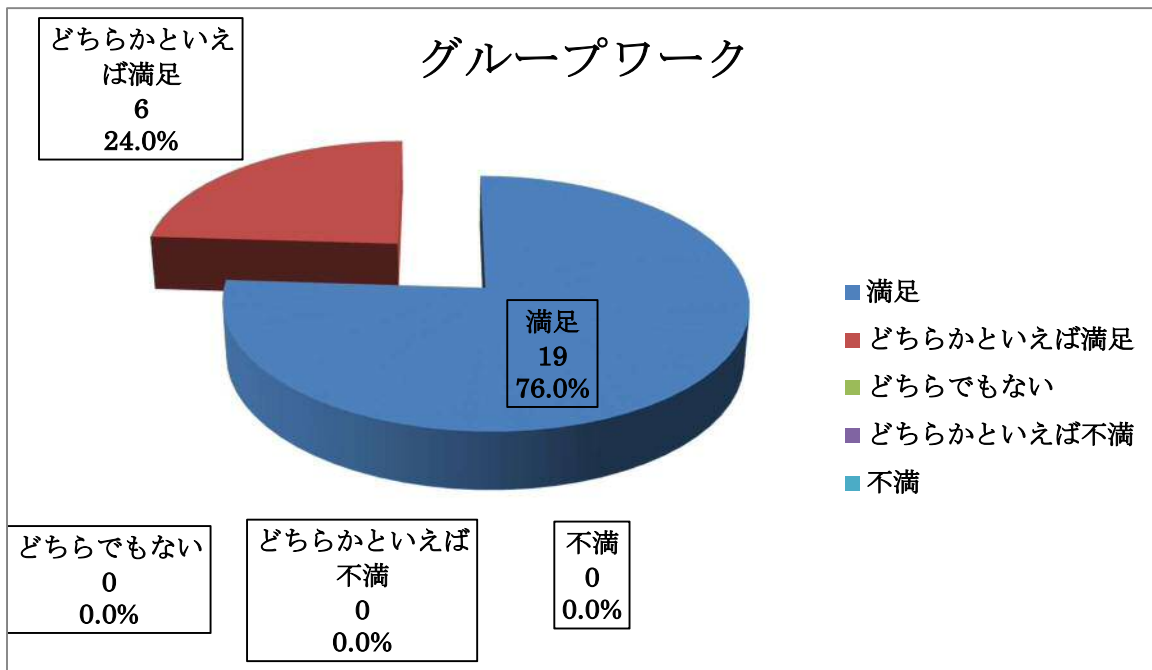
質問5 参加回数

| | | | | | |
|-----|-------------|-----|------------|------|-----------|
| 1回目 | 14人 (56.0%) | 2回目 | 4人 (16.0%) | 3回目 | 2人 (8.0%) |
| 4回目 | 2人 (8.0%) | 5回目 | 1人 (4.0%) | 6回以上 | 2人 (8.0%) |



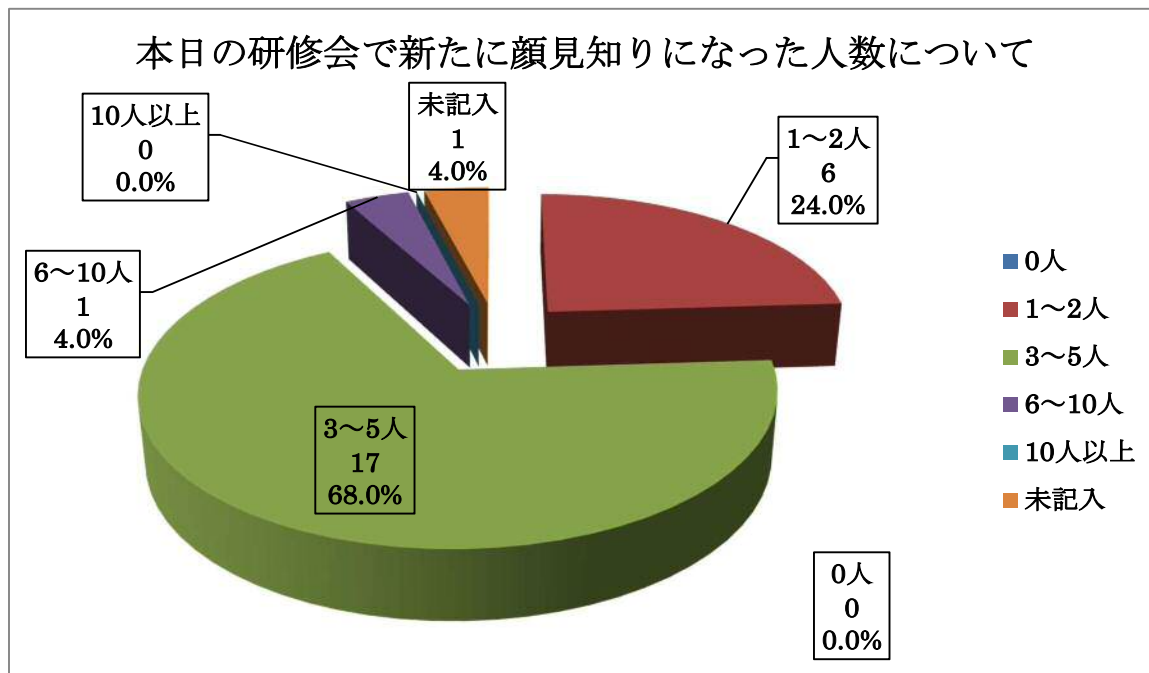
質問6 グループワークについて

| | | | |
|---------|-------------|------------|------------|
| 満足 | 19人 (76.0%) | どちらかといえば満足 | 6人 (24.0%) |
| どちらでもない | 0人 (0.0%) | どちらかといえば不満 | 0人 (0.0%) |
| 不満 | 0人 (0.0%) | | |



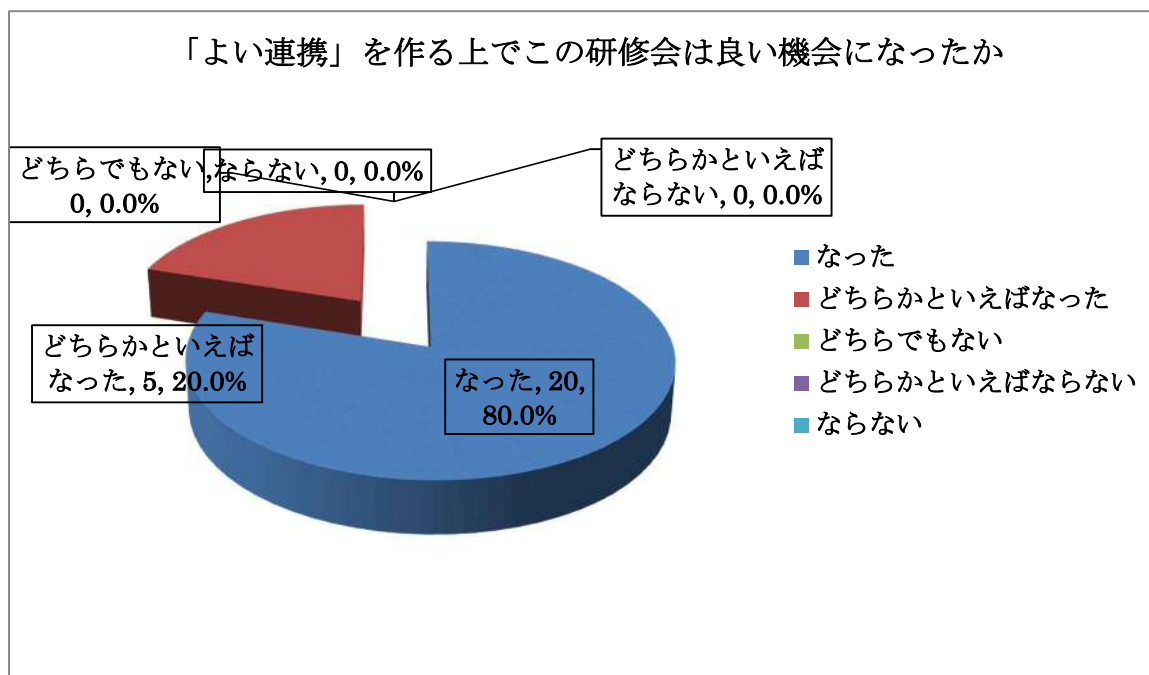
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

| | | | |
|-------|-------------|-------|------------|
| 0人 | 0人 (0.0%) | 1~2人 | 6人 (24.0%) |
| 3~5人 | 17人 (68.0%) | 6~10人 | 1人 (4.0%) |
| 10人以上 | 0人 (0.0%) | 未記入 | 1人 (4.0%) |



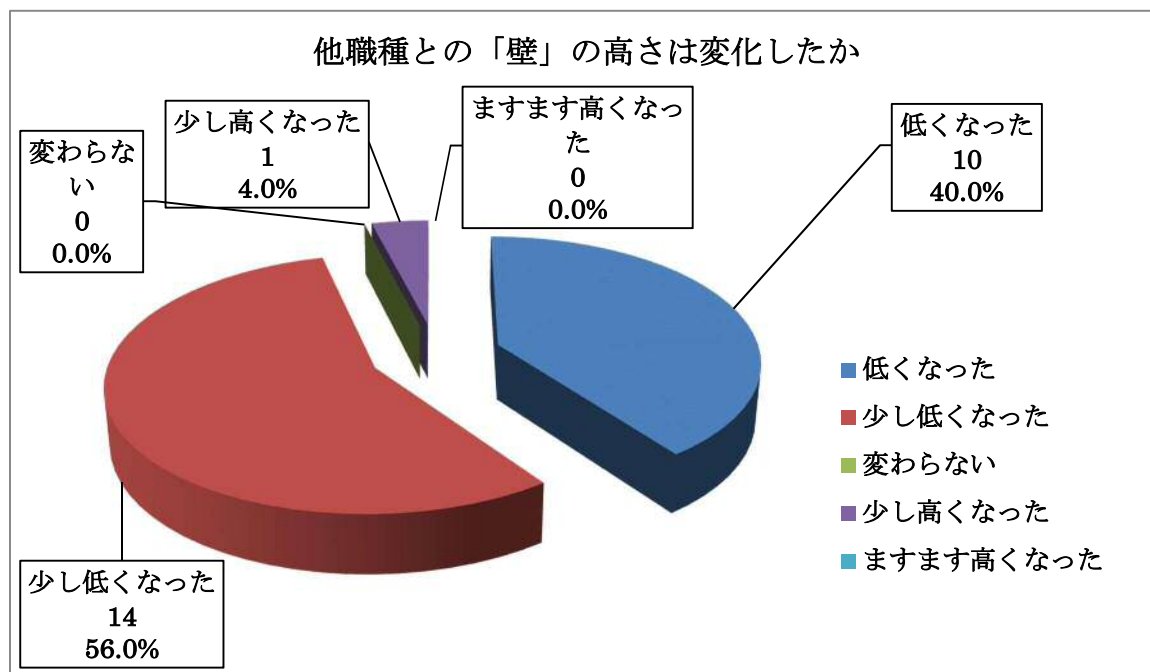
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

| | | | |
|---------|-------------|--------------|------------|
| なった | 20人 (80.0%) | どちらかといえばなった | 5人 (20.0%) |
| どちらでもない | 0人 (0.0%) | どちらかといえばならない | 0人 (0.0%) |
| ならない | 0人 (0.0%) | | |



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

| | | | |
|-----------|-------------|---------|-------------|
| 低くなった | 10人 (40.0%) | 少し低くなった | 14人 (56.0%) |
| 変わらない | 0人 (0.0%) | 少し高くなった | 1人 (4.0%) |
| ますます高くなった | 0人 (0.0%) | | |



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・ 相手を理解すること。

(薬剤師)

- ・ 他職種と連携し、それぞれの知識や技術などを活用していくこと。
- ・ 他職種の理解を深める。
- ・ 顔の見える関係 + 相互理解 + 討議。
- ・ いろいろな職の特性を十分知らない。
- ・ 気軽に情報交換ができる関係づくり。雰囲気。
- ・ 各職種の方の専門的な職種内容の理解がとりあえず必要と感じました。
- ・ どの職種の方が、何をできるのか、何をしているのか、私自身、大変不勉強であった。
- ・ 患者さんの家庭状況など個人さんの情報、人間関係、の基本的な把握が服薬指導をされていて必要。

(看護師)

- ・ 薬について悩むことがある場合に相談できることを知りました。
- ・ 訪問看護を入れることが重要だと思う。
- ・ 看護が連携の要 (かなめ) であることを知ってもらいたい。
- ・ 薬剤師との連携もとても大切だと感じた。とても勉強になりました。

(保健師)

- ・ 他職種の仕事を知ること。

(社会福祉士)

- ・ 多職種間の理解。

(介護福祉士)

- ・絶対的に必要なことだと思います。
もっと医療の立場の方と意見交換ができれば良いのにとと思います。
- ・利用者の負担額が低くならないとどんなサービスも使う人がいないと思います。

(介護支援専門員)

- ・切れ目のないケア。
- ・このような研修会の積み重ねだと思います。
- ・今回の研修の様な機会。気軽にできるコミュニケーションの機会。
- ・気づいたことは、小さなことでも 報告 連携 をとってゆく。
- ・自分の心の壁。

(介護員)

- ・大事な話聞き勉強でした。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(医師)

- ・嚥下リハビリテーション 牛山京子さん。

(薬剤師)

- ・研修会の結果等をフィードバックして欲しい。

(看護師)

- ・認知症の方との関わりについて。
- ・認知症研修会を希望。
- ・今回の様な専門的な発表とそれに付随した連携の成功事例や失敗事例をまとめグループワークするのもおもしろいと思います

(保健師)

- ・認知症の地域での取り組み、見守り。

(介護福祉士)

- ・現場の方だけでなく、役場の職員も勉強して欲しい。
- ・訪問介護職ができる医療行為。

(介護支援専門員)

- ・訪看さんと介護の連携。
- ・訪看の役割等のテーマ。

自由記載欄

(看護師)

- ・医師、薬剤師、看護師、ケアマネ、介護員、それぞれの立場、責任の所在をしっかりと把握する必要があると思いました。
服薬管理は医師、薬剤師、看護師の業務であり、ヘルパーさんは服薬確認までです。薬事法、医療法をしっかりと学ぶことも重要だと思います。
お金の問題ではないと思います。薬剤師の訪問よりもヘルパーが安価とは・・・ちょっといやあまりにも次元が低いと思います。もっと法律を知ってもらいたいです。
※専門性のすみわけが重要だと思います。

平成 26 年度第 5 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 27 年 1 月 24 日 (土)
14:00~16:00
 - (2) 場 所 東山地域交流センター
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 133 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

日時：平成 27 年 1 月 24 日 (土)
14:00~16:00
場所：東山地域交流センター
多目的ホール

次 第

- 1 開 会 14:00
 - 2 挨拶
 - 3 医療と介護の連携マニュアルについて 14:10
(ア)マニュアルの必要性
(イ)事例紹介
(ウ)質疑応答
(エ)その他
 - 4 閉 会 16:00
-

2 アンケートの集計結果

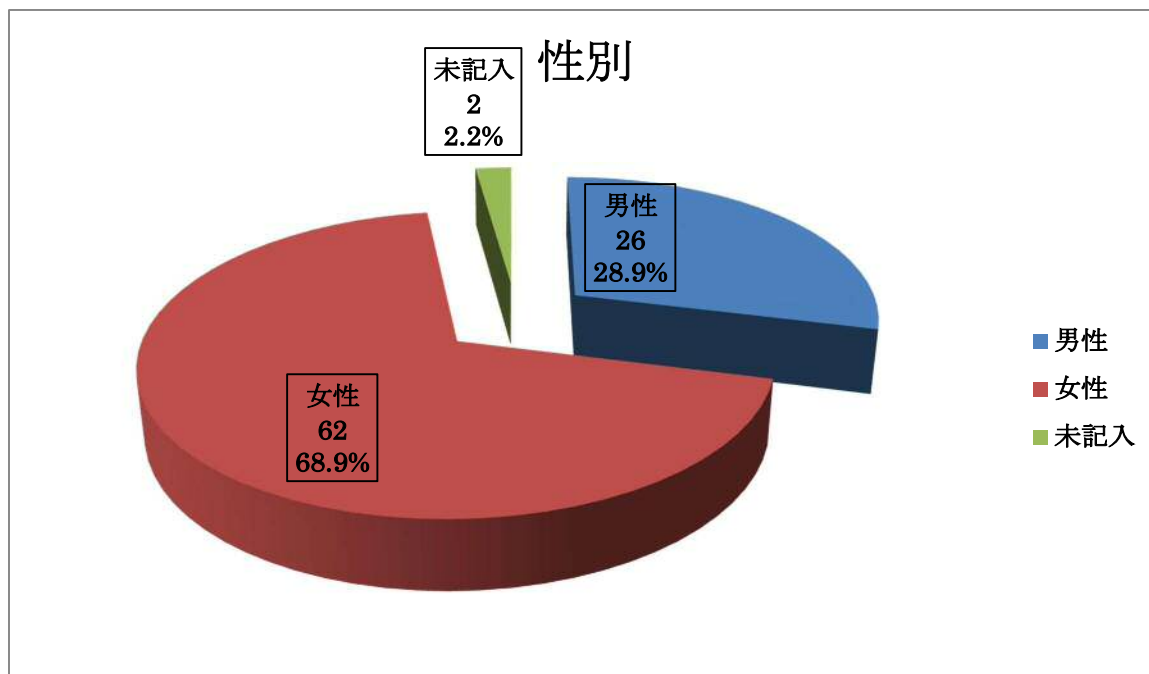
回答者数 90 人 (回収率 67.7%)

質問1 性別

男性 26 人 (28.9%)

女性 62 人 (68.9%)

未記入 2 人 (2.2%)



質問2 年齢

20歳代 6 人 (6.7%)

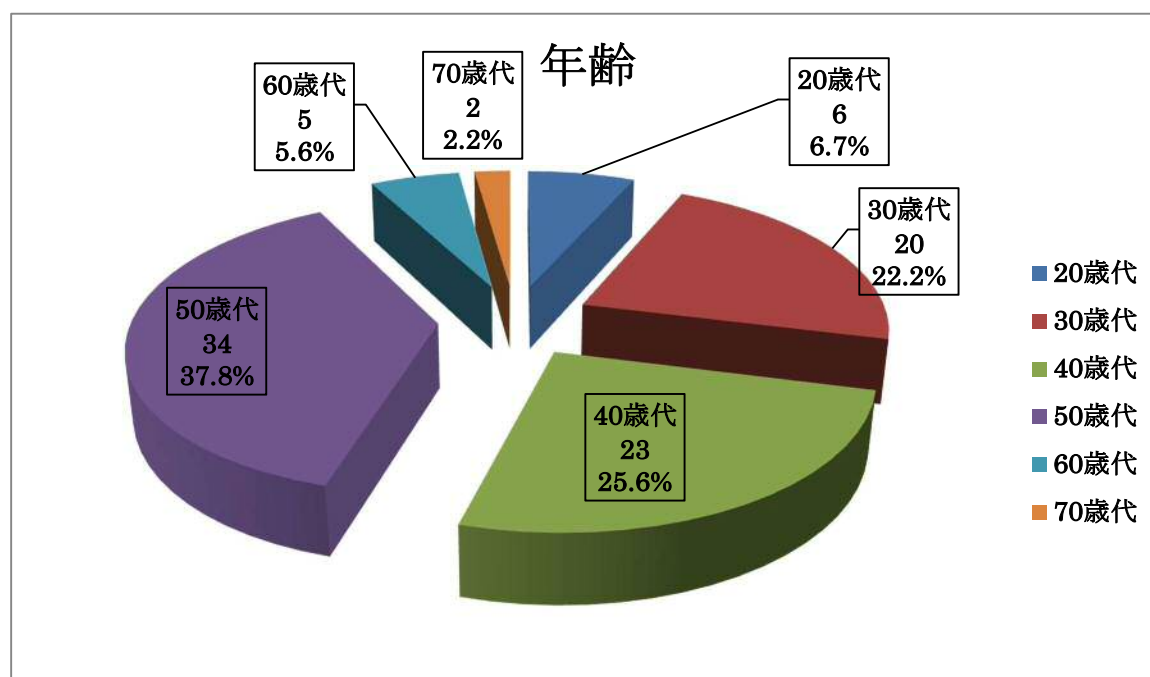
30歳代 20 人 (22.2%)

40歳代 23 人 (25.6%)

50歳代 34 人 (37.8%)

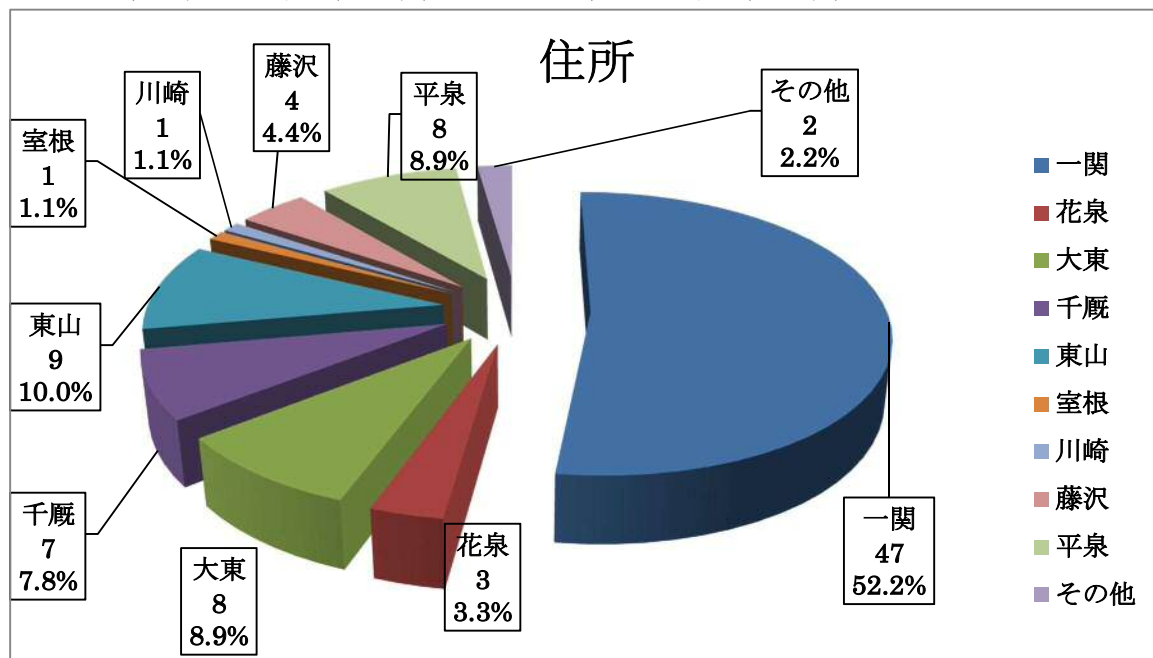
60歳代 5 人 (5.6%)

70歳代 2 人 (2.2%)



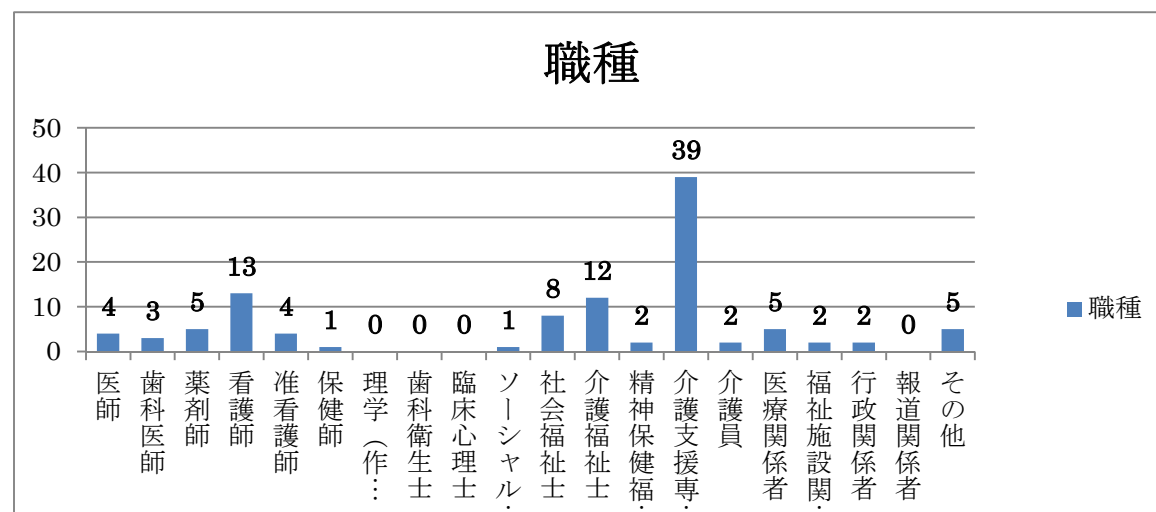
質問3 住所

| | | | |
|-----|-------------|-----|-----------|
| 一 関 | 47人 (52.2%) | 花 泉 | 3人 (3.3%) |
| 大 東 | 8人 (8.9%) | 千 厩 | 7人 (7.8%) |
| 東 山 | 9人 (10.0%) | 室 根 | 1人 (1.1%) |
| 川 崎 | 1人 (1.1%) | 藤 沢 | 4人 (4.4%) |
| 平 泉 | 8人 (8.9%) | その他 | 2人 (2.2%) |



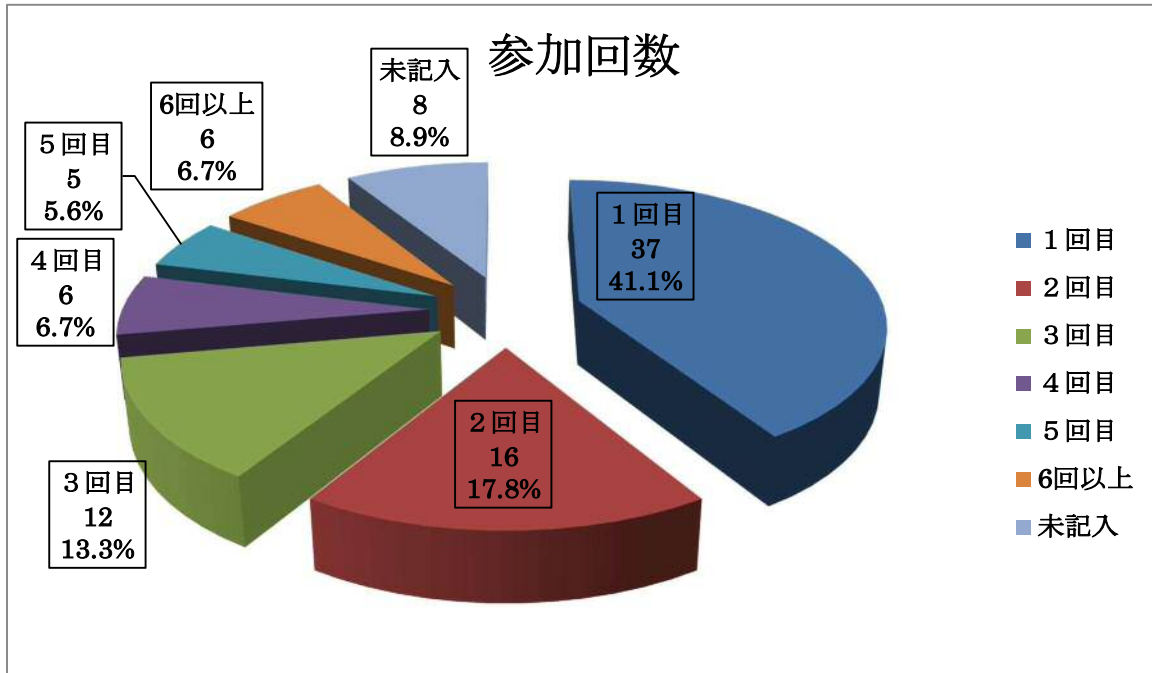
質問4 職種

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 医師 | 4人 (3.7%) | 歯科医師 | 3人 (2.8%) |
| 薬剤師 | 5人 (4.7%) | 看護師 | 13人 (12.1%) |
| 准看護師 | 4人 (3.7%) | 保健師 | 1人 (0.9%) |
| 理学(作業)療法士 | 0人 (0.0%) | 歯科衛生士 | 0人 (0.0%) |
| 臨床心理士 | 0人 (0.0%) | ソーシャルワーカー | 1人 (0.9%) |
| 社会福祉士 | 8人 (7.5%) | 介護福祉士 | 12人 (11.2%) |
| 精神保健福祉士 | 2人 (1.9%) | 介護支援専門員 | 39人 (36.4%) |
| 介護員 | 2人 (1.9%) | 医療関係者 | 5人 (4.7%) |
| 福祉施設関係者 | 2人 (1.9%) | 行政関係者 | 2人 (1.9%) |
| 報道関係者 | 0人 (0.0%) | その他 | 5人 (4.6%) |



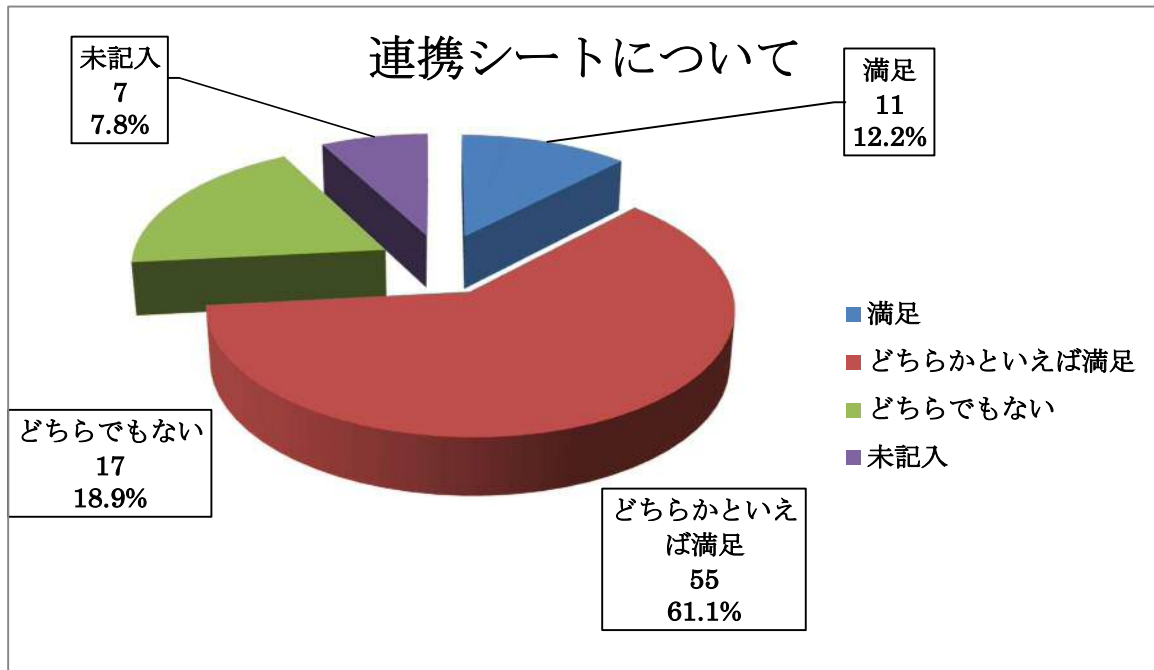
質問5 参加回数

| | | | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|------|-------------|
| 1回目 | 37人 (41.1%) | 2回目 | 16人 (17.8%) | 3回目 | 12人 (13.3%) |
| 4回目 | 6人 (6.7%) | 5回目 | 5人 (5.6%) | 6回以上 | 6人 (6.7%) |
| 未記入 | 8人 (8.9%) | | | | |



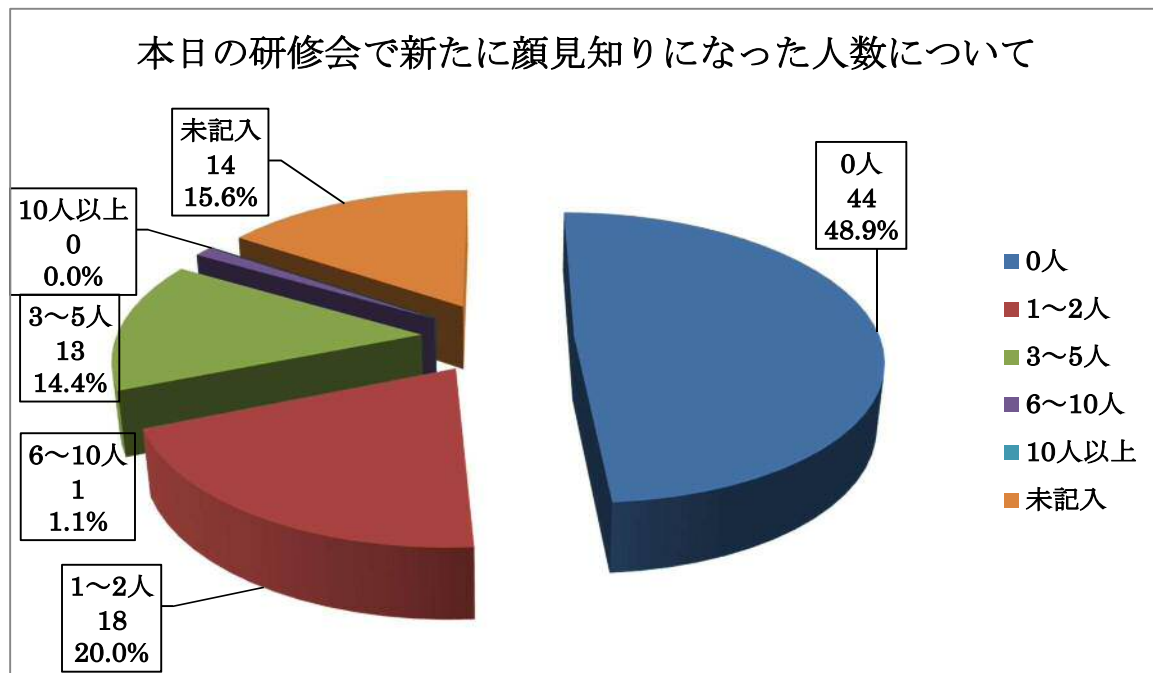
質問6 連携シートについて

| | | | |
|---------|-------------|------------|-------------|
| 満足 | 11人 (12.2%) | どちらかといえば満足 | 55人 (61.1%) |
| どちらでもない | 17人 (18.9%) | 未記入 | 7人 (7.8%) |



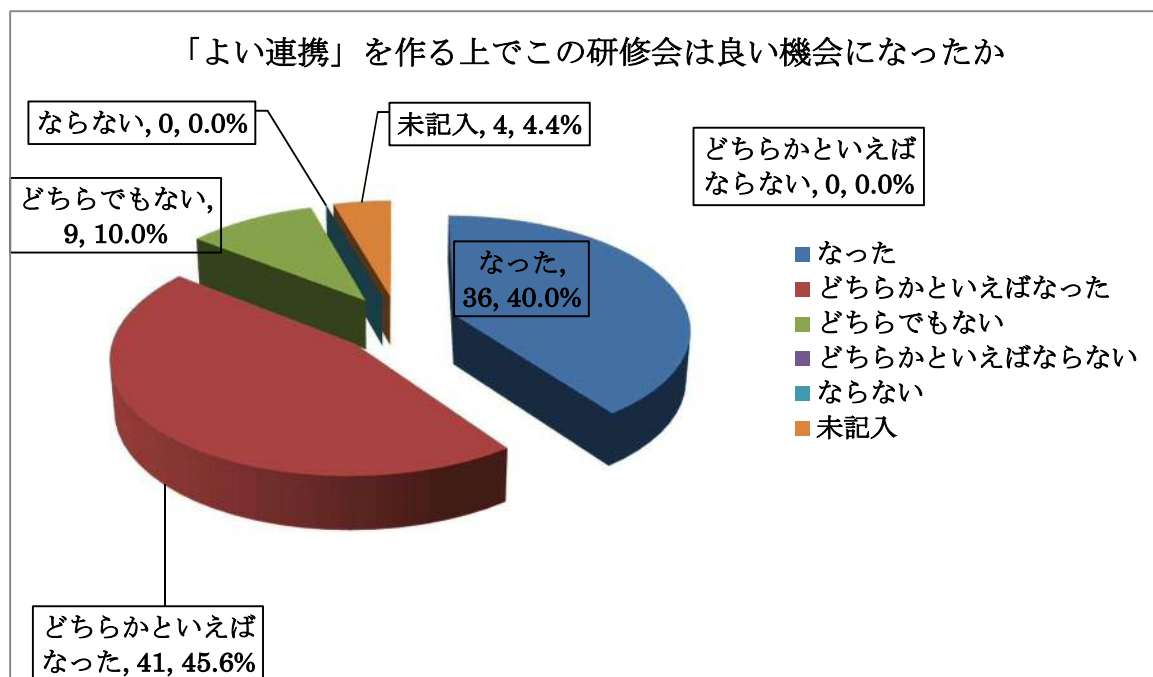
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

| | | | |
|-------|-------------|-------|-------------|
| 0人 | 44人 (48.9%) | 1~2人 | 18人 (20.0%) |
| 3~5人 | 13人 (14.4%) | 6~10人 | 1人 (1.1%) |
| 10人以上 | 0人 (0.0%) | 未記入 | 14人 (15.6%) |



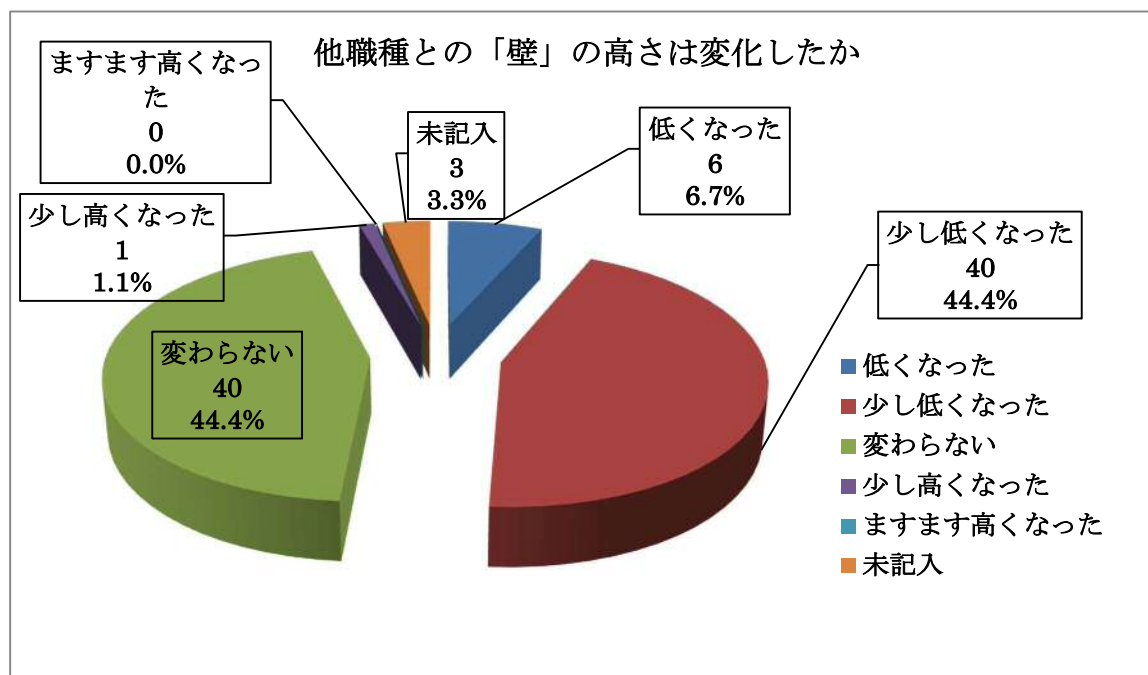
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

| | | | |
|---------|-------------|--------------|-------------|
| なった | 36人 (40.0%) | どちらかといえばなった | 41人 (45.6%) |
| どちらでもない | 9人 (10.0%) | どちらかといえばならない | 0人 (0.0%) |
| ならない | 0人 (0.0%) | 未記入 | 4人 (4.4%) |



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

| | | | |
|-----------|-------------|---------|-------------|
| 低くなった | 6人 (6.7%) | 少し低くなった | 40人 (44.4%) |
| 変わらない | 40人 (44.4%) | 少し高くなった | 1人 (4.0%) |
| ますます高くなった | 0人 (0.0%) | 未記入 | 3人 (3.3%) |



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・魂
- ・先ず取り組んでみる事。
- ・フラットな関係でいきましょう。
- ・まず始めることだと思います。

(歯科医師)

- ・お互いに信頼することだと思います。まずは行動（アクション）をおこし、そこから出てきた議題は皆さんの知恵や経験から乗り越えていけると思っています。

(薬剤師)

- ・適切な情報共有、お互いの職種の業務内容の理解。
- ・共同の研修会やミーティングなどの実施。
- ・研修会は有意義でした。
- ・今回のような研修会が必要だと考えます。

(看護師)

- ・患者さんの生活情報を共有することにより、入院前の情報の共有や入院後の状況が把握され、住み慣れた所で生活が出来るよう切れ目のないケアが提供できる。
顔の見える連携が必要（その他の欄の活用）。とにかく実施してみてより良いものに改善していく。（高齢化、認知症、独居、救急搬送、2,025年問題等、今後現状見ている必要あり。）
- ・まず活用してみます。（様式統一するのが連携しやすくなると感じました。）
- ・生活情報の欄に義歯、嚥下、口臭、口腔ケアを網羅したほうが良いのでは。

- ・連携シート、何とか始められそうです。めどがつかしました。ありがとうございました。
- ・情報共有シートがうまく活用できるように浸透させる。

(準看護師)

- ・情報交換と情報共有。
- ・お互いの仕事を理解する。寄り添っていく。

(ソーシャルワーカー)

- ・訪問診療と急変時の対応。
- ・死亡時の連携。
- ・全体的医療と連携。一つの病気だけが治っても他との状態との関係性で。

(社会福祉士)

- ・多職種間の理解。

(介護福祉士)

- ・お互いの理解だと思います。
医師の方々は介護職の内容をもう少し理解していただければと思います。
- ・介護側の勉強。
- ・医療側のあゆみより。
- ・もっとこの様な医療と介護従事者が顔を合わせる機会を作って頂ければ良いのかなと思いました。
- ・顔が見えること、医師と仲良くなること
- ・相互理解
お互いの仕事の内容や状況を理解した上で、利用者の生活をより良くするためという共通目的の上
に立って考えることが必要だと思います。

(精神保健福祉士)

- ・身体的問題だけでなく、精神的・生活歴ストレス支店の情報も共有していきたい。
- ・お互いの役割を知った上で、より密な情報交換、共有。

(介護支援専門員)

- ・礼儀をもって接すること。
- ・今日の研修会のように多職種で意見交換をすることが今後も必要だと思います。
とても良かったと思います。まずはシート活用してみましょう。
- ・情報提供：介護側だけが出向いたり行動するのではなく、医療側も出向いていただきたいです。
(かなり多忙化とは思いますが)
- ・医療側と介護側とそれを受ける本人や家族の理解やまわりのスタッフが心配していることや、こう
したほうが良い都心から思っていることを解って欲しい。他のスタッフも理解と協力をお願い
したい。こちらが思っても家族が受診しない例があり、それを他職種が責める場面もあるので受
ける方に周知してほしい。
- ・足を運ぶこと。
- ・医師や医療関係者と同じ場での研修は壁を低くする上で必要と思う。
- ・顔の見える関係作り。思いやりの心。
- ・思いやり
- ・思いやり
- ・自分で足を運ぶのが一番だと思います。
- ・お互いのコンタクトを取り易い環境（ケアマネだけでなく、医療側からもコンタクトしていただ

れば連携が取りやすいのですが)

- ・医師と共に考えることが必要であり、それが出来つつあると心強く感じました。

(介護員)

- ・今後も継続。

(医療関係者)

- ・情報共有
- ・話し合う場 — コミュニケーションをとる。

(保健推進委員)

- ・患者さんを根底にし地域の健康をより深く考えていくためのチームワークの大切さを感じた。特に一人暮らしの人が増えてくるこれからの時代、大切な研修会でした。

(その他)

- ・共有シートのかかりつけ医情報の中断にかかりつけ薬剤師も欄も欲しいのでは？

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(医師)

- ・関係者以外に市民へも周知する必要あり。
- ・事例報告。

(薬剤師)

- ・お薬手帳の存在が大切であることを改めて認識しました。
共有シートに服用している（禁忌薬）（ハイリスク薬）の記載欄が必要と思います（ワーフカリンなど）
- ・一般の方も交えた研修会をして欲しい。
- ・多職種の業務内容を理解し、他職種への要望など意見交換できるようなテーマ。

(看護師)

- ・認知症の介護、老老介護、在宅介護について。
- ・認知症ケア関連。家族介護者、自宅での介護の対応策。
- ・精神科（南光）です。精神科への高齢者の入院が多くシートの勉強不足ありました。利用させていただきます。
- ・健康寿命を伸ばすために。
肺がんの予防、脳卒中予防、認知症、転倒予防など
- ・搬送先の病院で希望する医療。最期の時をどう迎えるか。

(保健師)

- ・認知症の地域での取り組み、見守り。

(ソーシャルワーカー)

- ・緊急時の対応で事前の意識確認（延命治療の有無）

(社会福祉士)

- ・医療側のへの介護施設の状況や施設ごとの役割説明

(介護福祉士)

- ・通院時の報告内容等情報の伝え方等
※介護職員の医療行為について。やって下さい。お願いします。

(精神保健福祉士)

- ・今後は認知症のテーマも含めて検討できればと思う。
- ・認知症の方を地域で支えることについて
周辺症状の対応の仕方、専門外の方への研修（ケアマネ等以外）。

(介護支援専門員)

- ・医師や医療関係者との合同の会議や研修会を多く開催してほしい。
- ・グループワークなども良い

(介護員)

- ・医療と介護の連携連絡会研修会の定期開催

(その他)

- ・認知症の方に対しての理解と地域支援、今後の対策等